

# READ ASIA 2015

—アジア人材育成プログラム—



この報告書の著作権は日中学生交流連盟、及び国際交流基金日中交流センターに帰属します。  
内容の全部又は一部を複製し利用することを禁じます。

2015年12月発行

## 主催



## 協力

三菱商事株式会社

株式会社三菱東京UFJ銀行

大日本印刷株式会社

株式会社博報堂

株式会社ゼンショーホールディングス

藤田観光株式会社

株式会社ホトロン

睦特殊金属工業株式会社

株式会社ラヴォックス

日本銀行

社会福祉法人新生寿会

特定非営利活動法人国際社会貢献センター

# はじめに

リードアジア実行委員会 実行委員長

慶應義塾大学理工学部機械工学科4年 日高真太郎



リードアジアは2012年、尖閣諸島問題を発端に日中関係が「史上最悪」と言われるまでに冷え込んだ時期に開かれた「日中青年討論会」をきっかけに誕生しました。

「日中交流に馴染みのなかった学生に日中交流の意義を感じてもらうこと」。これがリードアジア開催の一番の目的です。3年目を迎えた今年、私たちは「日中交流により多くの学生を巻き込むためにはどうすればよいか」、「リードアジアを今後も持続可能なプログラムにしていけるためにはどうすればよいか」を真剣に議論し、例年の夏季プログラムの継続実施および更なる質の向上に加え、春季プログラムと1dayプログラムの新規実施による事業規模の拡大を決定いたしました。

就職活動時期の変更により、プログラムにご協力いただける企業が決定するまで様々な困難がありましたが、幸いご縁に恵まれ、無事に全てのプログラムを実施することができ、本年リードアジア同窓生に約80名の学生が加わりました。プログラムを通して、参加学生の間には確かな絆が生まれたことを実感しております。現在も日本で、中国で、アメリカで、と場所を問わず活発に参加者間での交流が行われており、運営側としては嬉しい限りです。

本事業の参加学生が、将来多様な分野で日中関係の発展に寄与していくこと、また、今回の参加者を起点に日中交流の輪が更に広がっていくことを心から願っております。

末筆ながら、プログラム開催にあたり多大なるご尽力をいただいた国際交流基金日中交流センター、企業、その他の法人、個人の皆様に衷心より御礼申し上げます。日中交流促進のため、より一層努力してまいりますので今後とも温かいご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



国際交流基金 日中交流センター 事務局長 堀俊雄



国際交流基金日中交流センターは日中の青少年交流の活動運営・支援を行っています。日中学生交流連盟との共催である「リードアジア」プログラムへの支援もそのひとつです。

2013年に開始した本事業は今年で3年目に入りました。リードアジアに集った大学生たちも、延べ150名を数えます。

今年の夏季プログラムの特徴は、参加人数こそ40名(日本人学生19名、中国本土や米国から来日した中国人学生14名、日本で留学中の中国人学生7名)と昨年より若干減少しましたが、参加大学が昨年、一昨年に比べ、多岐にわたっているという点です。日本国内の大学で学ぶ日中学生のみならず、中国各地での「ふれあいの場」の運営に携わる学生も参加してくれ、交流の輪が広がった感があります。本事業に参加した学生達は、寝食を共にしながら、本事業実現に至るまでのさまざまな困難を克服し、企業訪問やディスカッション、勉強会等を実践してきました。より深い日中相互のコミュニケーションが図れたものと思います。

一方で、多数の企業、団体の皆様からは本事業への並々なご支援をいただきました。本事業実施時期が今年の就職活動の時期に重なってしまい、各企業様にとっては超多忙な時期であったにもかかわらず、各種ご調整いただき、快くご対応くださったことは、まことにありがたくここに厚く感謝申し上げます。企業訪問は学生たちにとって大きな経験と励みになり、新たな視野を開くことが出来たものと確信しております。

参加した学生が将来、日中両国をはじめ、本事業タイトルのとおり「アジアをリード」する人材に、ひいては世界で活躍する人材になってほしいと願うとともに、これからも日中両国の多くの賛同を得て、本事業の活動の輪が広がっていくことを願っています。



## もくじ

1. 事業概要	3
2. 活動の内容	
春季プログラム	4
1dayプログラム	4
夏季プログラム	5, 6
企業訪問の様子	7~12
企業アンケート結果	13
講演の様子	14
講評	15
3. 活動を終えて	
参加者の声	16~23
参加者募集アンケート結果	24
4. 協力企業・団体一覧	25, 26
5. 主催団体紹介	27, 28
6. 学生実行委員紹介	29
7. 協賛のお願い	30

# 1. 事業概要

## READ ASIA2015 アジア人材育成プログラム

### 春季プログラム

実施日程：2015年3月23日～25日（2泊3日）  
開催地：東京  
主催：日中学生交流連盟  
後援：国際交流基金日中交流センター  
参加人数：24名

日本の大学に通う日本人学生：12名  
日本の大学に通う中国人学生：12名

訪問企業：大日本印刷株式会社



### 1dayプログラム

実施日程：2015年5月13日  
開催地：雪印メグミルク株式会社 海老名工場  
主催：日中学生交流連盟  
参加人数：20名

日本人社会人：6名  
日本の大学に通う日本人学生：6名  
日本の大学に通う中国人学生：8名



### 夏季プログラム

実施日程：2015年8月16日～24日（8泊9日）  
開催地：東京  
共催：日中学生交流連盟  
国際交流基金日中交流センター  
参加人数：40名

日本の大学に通う日本人学生：19名  
日本の大学に通う中国人学生：7名  
中国の大学に通う中国人学生：14名



訪問企業：

三菱商事株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、株式会社博報堂、大日本印刷株式会社、藤田観光株式会社、株式会社ゼンショーホールディングス、日本銀行、日本放送協会、株式会社ホトロン、睦特殊金属工業株式会社、株式会社ラヴォックス、社会福祉法人新生寿会

### 参加者大学一覧（日本側：29校、中国側10校、計39校）

日本側（日本人学生・留学生）

【関東】東京大学、一橋大学、慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学、東京外国語大学、横浜国立大学、明治大学、中央大学、青山学院大学、学習院大学、国際基督教大学、東京農工大学、埼玉県立大学、山梨県立大学、東京海洋大学、津田塾大学、創価大学、東洋大学、白鷗大学、東京農業大学、実践女子大学、神奈川大学【近畿】京都大学、同志社大学、関西外国語大学【中国】山口大学【沖縄】沖縄国際大学【アメリカ合衆国】アメリカ創価大学

中国側（中国本土学生）

復旦大学、中国人民大学、中国伝媒大学、中山大学、黒龍江大学、大連交通大学、重慶師範大学、西南民族大学、長安大学、浙江工商大学

## concept “日中交流になじみのなかった層へのアプローチ”

本事業の最大の目的は「これまで日中交流に馴染みのなかった学生に日中交流の楽しさ・意義を感じてもらう」ことです。従来の日中交流プログラムではなかなか日中交流の裾野が広がらないという問題点がありました。そこで本事業では多くの学生の興味・関心対象である「ビジネス」や「インターン」、「就職」等の要素を取り入れた企業訪問プログラムを考案し、共同体験を通じた相互理解、ひいては日中交流に対する興味を引き出すこと図りました。

今年は例年の9日間の夏季プログラムに加え、より気軽に参加できる3日間の春季プログラムや1dayプログラムを実施することで、更に多くの層の学生へのアプローチを試みました。

# 2. 活動の内容

## 春季プログラムダイジェスト

### 1日目・3月23日・集合、勉強会



午後2時。春季プログラムの幕開けです。リードアジア史上初、2泊3日という短期間合宿。初日でいかに仲良くなれるかが勝負です。メンバーの名前を覚えなければ終了しないゲーム等、実行委員が練りに練ったアイスブレイクで参加者の雰囲気はあっという間に和やかに。事前研修も良い雰囲気です。夕食時には初日とは思えない賑わいを見せていました。夜間は高齢社会勉強会を行いました。高齢化という日中共通の社会問題の現状や取り組みなどの比較を行った後、その差異はどこから生じているのかについてディスカッションを行い、相互理解に努めました。

### 2日目・3月24日・大日本印刷訪問、最終発表会準備

朝早く起床し、大日本印刷に訪問しました。プログラムの詳細はP.7をご覧ください。宿舎に戻ったあとは、息をつく間もなくリードアジア成果発表会の準備に取りかかりました。テーマは、「2日間の学びを踏まえ、中国の高齢社会問題を解決するための提案」。前日の勉強会の内容をさらに掘り下げる班、大日本印刷の技術を高齢社会問題解決に活かそうとする班等、様々な切り口でのディスカッションが印象的でした。ほとんどの班が夜通し準備を行い、次の日に備えます。出会って1日しか経っていないのに国籍も異なる学生同士が協力し合い、思うように準備が進まなくても決して妥協しない姿は、スタッフの目にはとても眩しく映りました。



### 3日目・3月25日・介護施設視察、最終発表会



午前中は発表会の準備を行い、午後は柏地域医療センターに訪問しました。「百聞は一見に如かず」。2日間高齢社会問題について勉強したり議論したりしてきましたが、現場を実際に見ると各々様々な収穫があったようです。夕方には国際交流基金へ赴き、いよいよ発表会の時を迎えました。場には大きな緊張感が漂い、先行きが心配されましたが、全班無事に終えることができました。緊張感から解放された、最高に気分が高揚した状態で迎えた懇親会。リードアジアもいよいよ大詰めです。あっという間の幕切れの前に、「もっと一緒にいたかった」との声も。歓談の陰には、どこか寂しい空気が流れていました。皆で過ごした時間はたった3日間。されど3日間。たしかに生まれた絆を実感し、再開を皆で誓いました。時々刻々と迫る新年度の手前、リードアジア2015春季プログラム、閉幕。

### 1dayプログラム

### 5月13日・雪印メグミルク(株)海老名工場

はじめに事業概要の説明を聞いたのち、工場見学やディスカッションを行いました。今回の参加者は日中両国の学生のみならず、多様な業界で活躍されている社会人の方々も同行していただきました。雪印メグミルクは最先端の技術を駆使し、厳格な生産管理を行うことで我々消費者に美味しい、かつ安全な乳製品を提供していることを肌で感じる事ができました。最後のディスカッションでは、「技術伝承」や「食品衛生管理」をテーマに、社会人の方々と意見交換を行いました。短い時間ではありましたが、実際に生産現場を見学したり、社会人の方と議論をしたり、世代を超えての交流ができたり、と大変濃い時間を過ごすことができました。



## 夏季プログラムダイジェスト

### 1日目・8月16日・集合、来日



16時。オリンピックセンターの一室に続々と日本人学生と留学生が集合しました。順調に来日した中国本土学生先着組も続きます。オリンピックセンターの入り口には男子学生が待ち構え、荷物運びを手伝うという微笑ましい光景も見られました。春季同様、最初はひたすらアイスブレイクを行いました。目標は夕食までに仲良くなることです。自己紹介に関連した2つのゲームで少しずつ参加者同士の口数も増えていきました。夕食後はチームビルディングを行いました。難解な“貿易ゲーム”やリードアジア恒例の“マシュマロチャレンジ”で場は大きな盛り上がりを見せました。一方で中国本土学生遅着組には暗雲が立ち込めていました。飛行機の遅延に加え、曇みかけるような暴雨。歓迎のため、オリンピックセンターで待機していた学生達は待つことをあきらめ、先に就寝しました。遅着組が到着した頃、時計の針は深夜2時を指そうとしていました。

### 2日目・8月17日・事前研修、中小企業訪問、特技披露

ついに全参加者が一同に会しました。まずは一日目に行うことのできなかった自己紹介タイムから。個性的な自己紹介やそれに対する鋭いコメントが飛び交い、あっという間に2時間が経過しました。続いてABICの眞鍋忠夫氏による事前研修が行われました。“世界で通用する人になるためには”というテーマでお話いただき、リードアジアの経験を今後どのように活かしていくか、漠然とイメージすることができるようになりました。講演の詳細についてはP.14をご覧ください。

午後は4グループに分かれて、中小企業訪問を行いました。中小企業訪問の詳細はP.7～P.9をご覧ください。

夜は披露大会を実施しました。この企画は2014年の参加者の提案により実現し、大きな盛り上がりを見せたイベントです。今年も横笛やダンス、歌など個性的な特技が披露されました。最後には期間中誕生日を迎えた参加者へのバースデーサプライズも。参加者、スタッフ間の距離がどんどん縮まります。



### 3～5日目・8月18～20日・大企業訪問

3日目と5日目は全員で、4日目は3グループに分かれて、大企業へ訪問しました。各企業の活動詳細はP.9～P.12をご参照ください。

### 4日目・8月19日・夜・金融勉強会、歴史勉強会

この日の企業訪問プログラムでは、午前中は日本銀行、午後は三菱東京UFJ銀行、と官民それぞれの銀行に訪問しました。夜はその総括として、日本銀行の岡寄久美子様に、金融に関する講義をしていただきました。疲労がたまっているのにも関わらず、話に聞き入る参加者の姿が印象的でした。詳細についてはP.14をご覧ください。講演後は、留学生実行委員が企画した「歴史勉強会」を実施しました。“事実と真実”をテーマに歴史認識について日中双方の立場をまとめた資料を比較し、議論しました。事実に対するとらえ方の二面性を理解し、真実とは何かを考える良い機会となりました。短い時間でしたが、参加者からは大好評でした。「話し足りない」とその日の夜は参加者が自主的に集まり、深夜まで語り合い、交流を深めていました。



### 5日目・8月20日・夜・発表会準備

全ての企業訪問プログラムの日程を終え、いよいよ成果発表会に向けて準備開始です。最終発表のテーマは実行委員熟考の末決定した、「自由（但し、前半5日間の包括的な学びが踏まえられていること）」。大変取り組みにくいテーマですが、これには参加者の学びの総括を恣意的なものにしたいくない、という実行委員の強い思いが込められていました。実行委員内では、このテーマで本当に上手くいくのか、という不安もありましたが、夜通し準備する参加者の全力投球でその不安はすっかり解消しました。



### 6日目・8月21日・発表会、懇親会



午前中は引き続き準備を行い、午後は参加者同士で発表会を行いました。時間の都合上、ここで成果発表会で発表できる3つの班を決定しました。代表に選出された班は他の班からのフィードバックを基に本番に向けさらに質を高めます。そして迎えた発表会。どの班も堂々と、一回目よりも良い発表を行いました。発表をやり遂げた満足感ととてつもない疲労感。参加学生にとって、とても良い思い出になったのではないのでしょうか。引き続き行われた懇親会は、笑顔と自撮りが絶えず、とても良い雰囲気でした。懇親会後は、待ちに待った自由行動の時間です。遊びに行くのかと思いきや、すぐに宿舎に戻り睡眠をとる参加者も多数いたのが印象的でした。まさに、完全燃焼です。

### 7日目・8月22日・文化交流（料理、花火）

前日の疲れを考慮し、朝は少し遅めの始動となったこの日。夕方までは、「食」をテーマに文化交流を行いました。実行委員は各班にレシピ例とお小遣いを渡すのみ。各班で作りたい料理を自由に作りました。プログラムの盛り上がりは参加者次第です。結果は、予想以上の盛り上がりでした。“放っておいても盛り上がる仲の良さを7日目までに実現する”という目標を達成し、実行委員はプログラムの成功を確信し始めていました。夜は多摩川の花火大会に浴衣を着て出かけました。実行委員の早朝からの場所取りのかいがあり、特等席でゆったりと花火を鑑賞しました。花火のあとはエンドレスな写真撮影会。2時間ほどは撮っていたでしょうか。元々花火のあとは混雑を避けるため、その場に残る予定でしたが、「待機時間は各自の裁量で場を盛り上げよ」という各実行委員が密かに恐れていた仕事は取り越し苦労に終わりました。



### 8日目・8月23日・観光、打ち上げ



いよいよ実質的な最終日を迎えました。この日は6グループに分かれて観光を行いました。候補地をいくつか提示して希望を募りましたが、行先は横浜方面と浅草方面に集中しました。赤レンガ倉庫、浅草寺、スカイツリー、と各々最後のひと時を堪能しました。夜は全員渋谷に集まり、打ち上げを開催しました。今年は3時間の枠を設けましたが、それでも足りないくらい盛り上がりました。そして、いよいよクライマックスへ。参加者から実行全員へのサプライズがありました。これまでの思いが溢れ出し、涙する実行委員、参加者。渋谷の路上でもなお涙し別れを惜しむ集団は傍から見るとどう映ったのでしょうか。

### 9日目・8月24日・帰国、解散

朝5時。中国本土学生が宿舎から出発する時間になりました。日本側の学生も全員自主的に集まり、駅まで見送りに行きました。電車の出発時刻ギリギリまで別れを惜しみます。長いようで短かった9日間。思い出の一部を収めた記念DVDを手土産に、リードアジア2015夏季プログラムは静かに幕を下ろしました。

# 企業訪問の様子

## 大日本印刷株式会社 ～スルメイカの拡販戦略～

午前中は事業概要についての説明やショールームの見学を行いました。大日本印刷(以下、DNP)という企業名から紙への印刷を行う会社であると思っていた参加者たちは、書籍や雑誌への印刷事業は全体の20%にも満たないという話を聞いて驚愕した様子でした。実際にショールーム見学を行うと場は大盛り上がり。午後の前半も市谷のコミュニケーションプラザドットDNPを見学し、その技術を存分に体感しました。DNPに対する知見を深めた後はいよいよ課題に取り組みました。今回のテーマは、「新たなスルメイカ商品の拡販戦略の考案」。日本、中国それぞれの国での戦略を6人1グループで考えました。まずはお互いの国の文化を知るところから。参加者にとっては異文化を理解し、得た知識をマーケティングに応用するという非常に密度の濃い内容となりました。また、大日本印刷が行う事業ということで、前半のショールーム見学の内容を活かそうという姿勢が見られ、前半との一貫性が上手く保たれていました。発表は、アプリと連動するパッケージを考えた班、空港という場所の特性に着目して戦略を考えた班など独自性の強い自由な発想が多く見られ、大変興味深いものでした。発表後のフィードバックも充実しており、参加者は満足した表情を浮かべていました。

大日本印刷  
春・3/24

## 社会福祉法人新生寿会 ～信念を貫く介護施設～

高齢者福祉施設ありすの社きのこ南麻布へ訪問しました。まずは認知症患者と受け入れ施設に関する動画の鑑賞、および施設長による講演が行われました。「認知症患者の不可解な行動にも必ず意味はある。」不可解な行動を押さえつけるのではなく、その行動の背景にあるものを探ろうとする努力を重んじる施設長の言葉は私たちの心に深く響きました。講演後は施設見学へ。一見すると普通の空間に見えるのものにも関わらず、実は高齢者のために多くの工夫が施されていることが段々と明らかになり、参加者はすっかり興味深々に。見学途中、周りを見渡し、何かに気づいては自発的に質問する参加者の姿が印象的でした。質問すればするほど空間、家具、小物にいたるまで考えつくされていることを知った私たちは、施設の完成度にただただ驚かされるばかりでした。見学の最後には認知症患者とのふれあいの時間が設けられました。実際に交流してみても、認知症への印象が変わった学生も多かったことでしょう。最後はお菓子を食べながら施設長との対話の時間がありました。予定時間を大幅に超える量の質問にも真摯に対応していただき、一つの疑問も残すことなく訪問を終えることができました。

新生寿会  
夏・8/17

## READ ASIA2015

ホトロン  
夏・8/17

## 株式会社ホトロン ～センサーから紐解く中小企業～

雨の中、学生16名で町田へと向かいました。到着後まずは社員の方からショーケースに陳列されている製品についての説明がありました。身近なものもあれば日常生活では滅多に見ることのないものまで幅広いラインナップに驚きを隠せませんでした。会社説明では社員の方が事細かく説明をしてくださいました。日本と海外市場の違いや海外進出の裏話をメモを取りながら熱心に聞く学生の姿が印象的でした。続いて、センサーの仕組みについての講演が行われました。特に理系の学生は専門知識や専門用語が並べられているのにもかかわらず積極的に質問をしていました。最後には社員の方々の懇親会を開いていただきました。社員の方々の囲んでの立食パーティーではお寿司やその他のケータリングが振舞われ、中国人学生は初めて食べるお寿司に大いに盛り上がっていました。全体で約4時間という短い時間の中で私たちは株式会社ホトロン、そして日本の中小企業について多くを学んだような気がします。

## Company visiting

睦特殊金属工業  
夏・8/17

## 睦特殊金属工業株式会社 ～成功のカギは「信頼」～

睦特殊金属工業株式会社は、中国における外資系企業として初めての中国の証券取引所に上場した粉末冶金の専門メーカーです。工場見学では、金属粉末が圧縮された後、熱処理を経て、固く丈夫で精密な金属部品の姿に変わっていく一連のプロセスを実際に見ることができました。工場見学後、社長から「中国展開の経緯と流れ」についてのお話を伺いました。中国においてビジネスが成功したカギは何かという質問に対する、社長からの答えは「相手を信頼すること」でした。中国人の社員を信頼し、一早く現地化することによって中国市場に上手く溶け込み、ビジネスを成功させたそうです。ビジネスに限らず、何かを成功させるには人間関係が最も重要であること、そのためには例え国籍が違っても、一人の人間として相手を信頼することがいかに大切であるかということ強く感じました。中小企業として十数年にわたり中国とビジネスを行ってきた企業だからこそ物事の本質も学ぶことのできた訪問でした。

# 企業訪問の様子

## 株式会社ラヴォックス ～身近な電子機器の舞台裏～

暴雨の中、学生10名で赤羽へと向かいました。到着後、まずは社員の方より会社の業務説明がありました。電子機器の基板修理という、私たちが普段なかなか目にすることのないお仕事に、ラヴォックスの社員の方々がどういった熱い思いで取り組んでいらっしゃるのかを詳しく教えていただきました。続いて、社長さんより会社の海外進出についてのお話がありました。様々な困難にどう向き合ったのかを具体例に基づいてお話しいただいたので、頭の中でイメージしながら聞くことができました。最後は会社の近辺にある素敵な蕎麦屋さんにて、社員の方々と懇親会がありました。初めてお蕎麦を食べた中国人学生も何人かおり、来日後初めて食べる日本食を大いに楽しんでいました。今回の株式会社ラヴォックスへの訪問を通して、電子機器のみならず身の回りにある物への見方や、困難な問題へ取り組む姿勢が変わったような気がします。

ラヴォックス  
夏・8/17

## 三菱商事株式会社 ～商社とは何か～

午前中～午後の前半にかけては商社についての知見を深めました。様々な部署に所属する社員の方々に、担当する仕事についてお話いただきました。中国には日本の商社と同じような形態の企業は存在しないそうなので、特に中国人学生は興味津々な様子でした。講演後も質問が絶えず、一方通行ではない、インタラクティブな講義が展開されました。最後の講演のテーマは、「企業の社会貢献」でした。会社に併設された社会貢献のための施設の見学も行い、事業以外にも企業が大切にしなければならないことを体感することができました。最後はグループディスカッションでした。「30年後に商社は何かできるか」をテーマに日中の学生が議論しました。各グループには社員の方にアドバイザーとしてご参加いただき、不明点を明確にしながら議論を進めることができました。テーマはスケールが大きく難しかったようで、プログラム中にははめずらしく、議論のトーンが低くなることもありましたが、頭をフル回転させる中で得られたものは大きかったようです。

三菱商事  
夏・8/18

## READ ASIA2015

ゼンショーHD  
夏・8/18・午

## 株式会社ゼンショーホールディングス ～外食産業で感じた大和魂～

早朝の貴重な時間にもかかわらず、ゼンショーホールディングスの歴史と理念、そして現代の世界史をどう捉えるべきかについて、小川CEOが講演してくださいました。場には多くの社員も集まり、参加者学生は真剣な眼差しで話に聞き入っていました。「飢餓と貧困をなくそう！」という思いと「MMDシステムの構築」という思いに向けての行動が「15年間で30倍の成長」という目標を支えているのだということが良くわかりました。また、人材育成にも重点を置いていることが肌で感じられました。グループディスカッションでは、各グループに分かれての討議と発表に対して社員の方々も一生懸命メモを取られていました。最後には普段立ち入ることのできないすき家テストキッチンで実際に学生がマイ牛丼を作り、サラダとともに食すという時間が設けられました。日本の外食産業を牽引するリーディングカンパニーからは熱い思いのみならず、日本、アジア、そして世界に対する責任感を強く感じられました。

## Company visiting

藤田観光  
夏・8/18・午後

## 藤田観光株式会社 ～老舗の風格と至上的おもてなし～

「世界をもてなす、日本がある。」をコンセプトにホテル椿山荘東京を運営する藤田観光株式会社に訪問させていただきました。格式の高い門を越えると日本を代表する「和」の料亭へと案内され、会社説明をしていただきました。会社の歴史から近年の観光客の増加に伴う対応、そしておもてなしの精神を教えてくださいました。館内見学では、料亭・ブライダル・客室・庭園と一般学生には敷居の高いホテル椿山荘東京を隅々まで事細かく案内していただきました。特に庭園では日本ならではの雰囲気を感じることができました。ブライダルは女子学生から大きな人気を博し、「将来はここで結婚式を挙げたい！」という声も上がったほどでした。見学後には「訪日外国人のマナーについて」等のテーマでディスカッションを行いました。学生たちの真剣に取り組む姿に従業員の方々も感動し、講評でも素晴らしい評価を頂くことができました。中国人学生には特に人気な観光業にじかに触れることのできた、貴重な経験でした。

# 企業訪問の様子

## 株式会社博報堂 ～広告のカタチ～

午前中のゼンショーホールディングスの訪問者のうち、10名程で株式会社博報堂への訪問を行いました。  
最初は企業説明から始まりました。企業情報を画一的に伝えるのではなく、日常よく見かけることを例に使い、私たちが興味を持つことのできるよう、インタラクティブなセッションになりました。人を「消費者<生活者」と捉え、その概念をもとに物事をデザインし、提供していくということに感心しました。  
広告代理店はクライアントからの願いを実現していくような仕事をするのだらうと、もともと思っていました。しかし、お話を伺うと、それは思い込みで、実際の仕事の幅はもっと広く、映画やアニメなど、自発的に何かを人に発信していくプロジェクト事業も多く行っているということを知りました。  
短い時間にもかかわらず、最後は社員の方々も一緒にグループディスカッションを行い、働きがいや人生の生き方など、貴重なお話も聞けて大満足度の高い内容となりました。

博報堂  
夏・8/18

## 株式会社三菱東京UFJ銀行 ～日本を代表するメガバンクの奥深さに触れる～

プログラムは業務内容についてのビデオ鑑賞から始まりました。ガラス張りでブラインドが閉じた部屋での鑑賞でしたが、鑑賞後ブラインドが開くとそこにはディーリングルームが現れました。いままで見たことのない光景に質問が相次ぎ場は大いに盛り上がりました。  
その後は本館に移動し、主に中国事業についてのお話がありました。実際に中国事業を担当された方の体験談などもあり、話はとてもイメージしやすいものでした。質疑応答では、活発な質問・意見が飛び交いました。中には日本人がなかなか気づきにくい視点からの質問もあり、質問からも多くのことを学ぶことができました。  
最後は金庫の見学を行いました。日本銀行では見たくても見れなかっただけに、歓喜の声があがりました。荘厳な扉を横目にいよいよ内部へ。誰もいない金庫だらけの空間をゆっくりと闊歩し、その雰囲気堪能しました。銀行のセキュリティの高さを改めて実感すると、最後は参加者から気になるお値段を尋ねる声も。場は笑いに包まれ、良い雰囲気での訪問を終えることができました。

三菱東京UFJ銀行  
夏・8/19

## READ ASIA2015

日本銀行  
夏・8/19

## 日本銀行 ～中央銀行の圧倒的スケールを感じる～

午前中は日本銀行の見学を行いました。（夜間に行われた日銀の方による講義パートにつきましてはp14をご覧ください。）  
まずはビデオを鑑賞し、「銀行券を発券したり、銀行の銀行として機能することで金融の調整を行い、物価を安定させている」等の日本銀行が果たす役割についての理解を深めました。特に中国人は興味津々で、中国の金融システムとの比較を楽しんでいる様子でした。「中国ではね・・・」と語る中国人学生の話に聞き入る日本人学生。早くも金融を通じた日中交流が生まれていました。  
ビデオ鑑賞の後は建物内の見学を行いました。荘厳な雰囲気を楽しむ中で最も学生の注目を集めたのは金庫でした。残念ながら中に入ることはできませんでしたが、外観からでも、そのスケールの大きさを十分に感じる事ができました。1億円の重さを体感するなど、レクリエーションの要素も盛り込まれており、大満足で見学を終えることができました。  
最後は日本銀行の前で集合写真を撮り、思い出をしっかりと形に残しました。

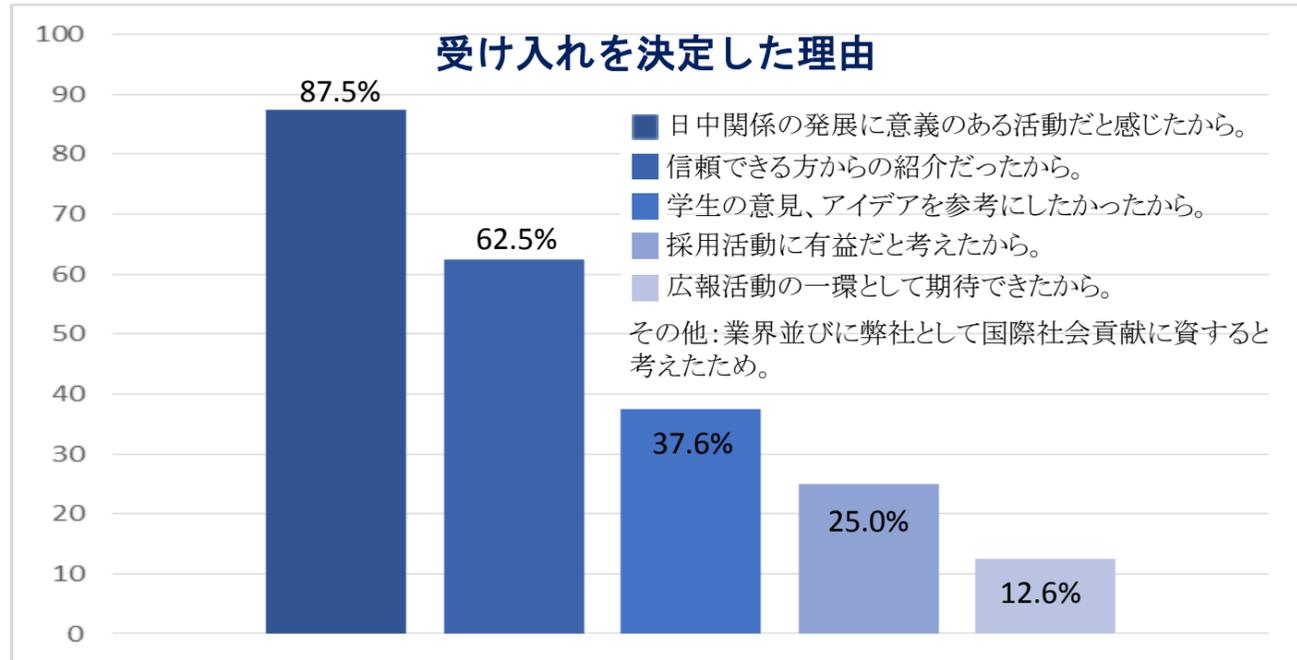
## Company visiting

大日本印刷  
夏・8/20

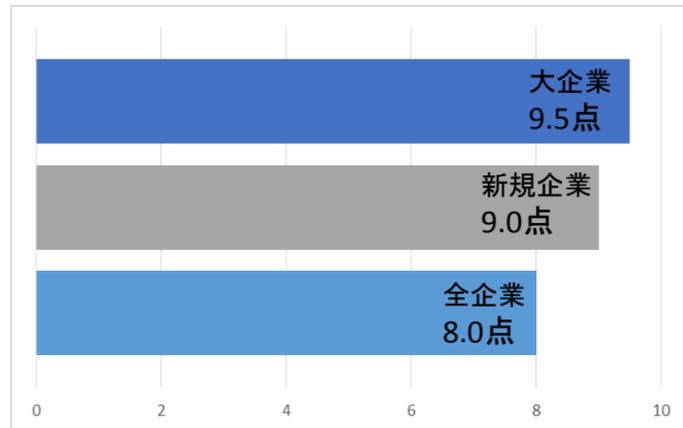
## 大日本印刷株式会社 ～訪日中国人に対するマーケティング戦略～

春季と同様に、午前中は会社説明およびショールームの見学、午後の前半はコミュニケーションプラザ ドットDNPの見学を行いました。スタッフにとっては2回目の訪問。想像と実際のギャップに対する参加者のリアクションの大きさは相変わらずでした。  
ドットDNP見学後は、別の市谷ビルに赴き、課題に取り組みました。今回のテーマは、「訪日中国人に対するマーケティング戦略」。ある薬局に中国人を呼び込むための施策を1グループ6人で話し合いました。各チームに一人ずつ社員の方にもご参加いただき、社会人を間近に議論が展開されました。見学の社員の方も多く訪れ、熱気に包まれた場は企業訪問最終日にふさわしい盛り上がりを見せました。ゆるキャラを用いた戦略、他の観光スポットと連動させた戦略等、多様な発表がなされ、改めて参加者の自由な発想に驚かされました。  
最後にDNPの社員3名からのフィードバックの他、各チームに担当社員がついてのフィードバックもなされ、グループとして良かった点や不足点を認識することができました。最終発表会直前ということもあり、自分たちへの客観的な意見は大変意義深いものとなったことでしょう。

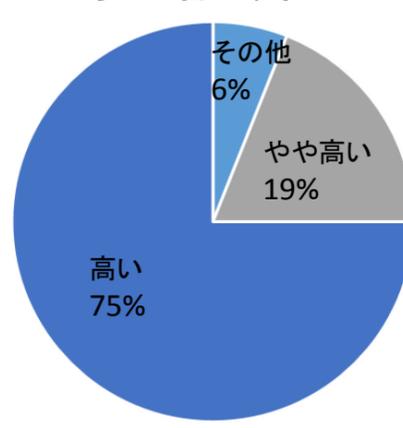
# 企業アンケート結果



### 企業満足度 (平均)



### 参加者の質



### 受け入れを終えて

- ・学生及び実行委員の意識の高さを実感したプログラムだった。
- ・皆様の「生の声」を聞きながらコミュニケーションが取れて大変勉強になった。
- ・日中学生交流の支援のみならず、結果的には、会社の知名度の向上、社員と留学生の懇親会を通じたグローバルな視野の拡大など、当社にとってもメリットは大きかったと思う。
- ・発表会が大変素晴らしかった。学生の皆様が性別や国籍の壁を越え、多様な意見を尊重し合い、日中関係だけではなく、様々なことに対し、前向きに取り組もうという想いが伝わってきた。
- ・プログラム全体を通し、多くのことを教えて頂き、また、課題を発見する機会にもなった。
- ・日中双方の学生に総合商社の業態についてご理解頂けたことは、商社業界並びに弊社にとって有意義なことであった。

# 夏季プログラム講演会の様子

## 事前研修時の講演 ～国際的に通用する人材とは～

企業訪問プログラムの実施に先立ち、特定非営利法人国際社会貢献センターの眞鍋忠夫氏より、「グローバル人材」、「企業の海外進出」、「企業訪問に際してのアドバイス」、などについて、ご講演いただきました。

グローバル人材について、「海外滞在歴が長ければ国際的に通用する人材になれるというわけではない。相手の国の事情や習慣を理解しようとする姿勢を常に大切にしなければならない。」というお話にハッとさせられました。海外に行きさえすれば当然現地のことや、そこに住む人の気持ちを理解することができるだろうと考えてしまいがちですが、積極的な“学ぶ姿勢”が大切なのだ気づくことができました。参加者・実行委員の中にも今日本に留学中の中国人学生や、これから日本や中国、アメリカなどに留学予定の学生も多くいたので、良い刺激になったと思います。

また、何をやるのにも人との関わりは避けて通れないものですが、相手の考えに異議を唱える際には、相手の人格の否定につながるよう、細心の注意を払うべきだということも印象に残っているお話の一つです。リードアジアはプログラムの特徴として議論する機会がとて多いので、このアドバイスは大変効果的でした。実際に、参加学生達は相手の意見にしっかりと耳を傾け、異論があるときはあくまで相手の意見に対して異議を唱えつつ、自分の意見を主張するということができていたような気がします。

企業訪問に際してのアドバイスでは、身だしなみや振る舞い方といった基本となることから、企業の将来性を判断するためにはどのような社風に注目すべきか、といった少し踏み込んだ内容までお話いただきました。いずれもすぐに実践したり、確認したりできるほど具体的なお話でした。今回は企業訪問が初体験の学生も多くいたので、大変役立つのではないのでしょうか。

90分間という短い時間でしたが、大変密度の濃い講演でした。今はインターネットで様々な情報を入手することのできる時代ですが、豊富な経験のある眞鍋さんからお話されるからこそ説得力があり、心に響いたのだと思います。

### 【講演者プロフィール】

眞鍋 忠夫 (まなべ ただお)

1948年生まれ。東京外国語大学卒、丸紅株式会社入社。エネルギー化学プラント第二部長、丸紅化学プラント社長、丸紅香港会社社長、丸紅中国総代表、カフコジャパン投資(株)社長、サハリン石油ガス開発(株)専務取締役歴任。退職後、大阪府商工労働部・スーパーバイザー、JETRO・中堅・中小企業新興国進出支援専門家、現在も数社の中小企業の海外進出アドバイザーを勤める。

## 夜の講演 ～金融とは何か (日本銀行プログラム夜の部)～

午前中に日本銀行を見学し、午後三菱東京UFJ銀行への企業訪問を終えた私たちは、一日の締めくくりとして日本銀行国際局の岡崎さんに「金融とはなにか」ということについてのご講演をいただきました。

冒頭はご自身の経歴を中国の政治と経済上の出来事と関連付けながら順序良くお話してくださいました。中国人の参加者にとっては時系列が頭に入りやすく、日本人にとってはここ20、30年ほどの中国の政治・経済の出来事の大枠を学ぶ大変良い機会となりました。時折中国で生活されたからこそ通じる冗談も交えてくださったので、学生の目は釘づけでした。

続いて、日本の金融制度についてのお話がありました。政府系金融機関と民間金融機関との違いといった基礎的な話から金融面の日中比較等のお話もあり、大変興味深かったです。中でも、日本では家計保有金融資産残高の金額が大きく、これが日本の金融の安心材料となっているというお話が印象的でした。

三番目の話題は、日本銀行の歴史やその役割についてでした。概要や沿革、業務のみならず、現状の政治と金融の関わりなど幅広く、かつ細部にも触れる話をしてくださり、訪問での学びを深めることができました。日本銀行への出資は100%政府であると思っていましたが、実際は55%であるというお話には驚いた参加者も多かったのではないのでしょうか。

講演の最後の時間には質疑応答が行われました。日本人参加者のみならず、中国人参加者からも活発に質問が飛び交い、参加者の知的好奇心の大きさを垣間見ることができました。一日を通して「金融とはなにか」ということを学びましたが、本講演は大変良い総括となりました。

### 【講演者プロフィール】

岡崎 久美子 (おかざき くみこ)

1960年生まれ。東京外国語大学、北京語言学院留学、日本銀行入行。国際局、福岡支店、情報サービス局、香港事務所、金融研究所等の勤務を経て、2011年9月より現職。この間、香港中文大学、外務省経済局、米ランド研究所、中国人民銀行上海総部に滞在し、中国の金融経済制度及び対外政策等に関する調査研究に従事。

# 講評

今年のリードアジア発表会での各チームのプレゼンテーションは日中両国の共同作業としての特徴がよく出ていた。

一般的に、プレゼンテーションや文章作成に際して、日本人は個別具体論を組み立てて述べる部分に力点を置くのに対して、中国人は主張すべき理念やコンセプトを明確に示すことを重視する傾向がある。

今年の各チームの発表は、冒頭部分で理念やコンセプトの整理に力点を置き、その上で個別具体事論を展開しており、中国人と日本人が互いの知恵を振り絞った努力から生まれてきた成果であることがよく伝わってきた。

最終選考に残った3チームのプレゼンテーションの内容はいずれも甲乙つけがたく、できれば3チームとも優勝させたかったというのが正直な感想だ。発表会で発表したのは3チームだけだったが、他のチームの発表も素晴らしい内容だったはずであり、できれば全チームのプレゼンを聞いてみたかったと感じたのは私だけではないだろう。

発表会で発表した3チームに共通していたのは、日中関係を考えるに際して、多角的な視点を持つこと、そして相手の気持ちになって理解することの大切さを強調していた点である。これはリードアジアのプログラムに参加した日中双方のメンバーが相互理解と相互信頼を前提にフランクな議論を積み重ねたからこそ得られた貴重な成果である。まさにこれを実感するためにリードアジアがあると言っても過言ではないだろう。そのことを参加メンバー同士が今回のプログラムを通じて共に体得し合った感動が各チームのプレゼンの随所から伝わってきた。

このような貴重な体験を得ることができたのは、日中関係に関する様々な問題を真剣に議論する現場に自ら進んで参加し、積極的にその問題と向き合ったからであるという点も指摘されていた。実際に現場へ行き、自分自身の目で見て、耳で聞いて、肌で感じて初めてわかるという実感は、全ての参加メンバーのこれからの人生において重要な指針になるはずだ。企業や政府での仕事あるいは大学やシンクタンク等での研究活動において、この指針を持ち続けることは極めて重要である。

現場に行くと、それまで何の疑問もなく抱いていた先入観が間違っていたことに気付くことが多い。この点もあるチームが指摘していた。現場において誤った先入観を修正して自分の頭で真剣に考えたことは、自己の内面を啓発し、データや間接情報ではつかむことができない物事の本質に対する理解を助けてくれる。

逆に現場に行かず、他者或いはメディア等からの間接情報を鵜呑みにしていると、自分が誤解しているという事実についても気が付かない。多くの日中両国民が互いに相手国を誤解し続け、日中関係の改善を妨げている根本的な原因はここにある。

リードアジアに参加したメンバーはその問題点を実感したのみならず、その誤解を解消するために自分たちには何ができるのかを真剣に考えている姿勢を見て、大変頼もしく感じた。

今年の発表会で優勝したAチームの発表は、その姿勢を見事に表現していた。

「相手を100%理解することはできなくても、相手のことを考え続ける、理解しようと試みる姿勢は大事」  
「自分の考えが絶対ではないという意識が大切」  
「“日中”を捨てる＝国家の枠を超えて、一人一人の人間として接しようよ」  
そして最後に、「リードアジアの目的は一人一人が考えるもの」と結んだ。

この主張はリードアジア2015に参加した全メンバーの想いを代弁したものだったと思う。来年以降もリードアジアが参加メンバー全員にとって、この想いを実感できる現場であり続けることを心から願っている。

日中学生交流連盟顧問  
瀬口清之

## 【プロフィール】

瀬口 清之 (せぐち きよゆき)

キャノングローバル戦略研究所研究主幹/アジアブリッジ(株)代表取締役

1959年生まれ。1982年東京大学経済学部を卒業後、日本銀行入行。在中国日本国大使館経済書記官、北京事務所長を歴任し2009年3月末日本銀行退職。同年4月よりキャノングローバル戦略研究所主幹。2010年11月、アジアブリッジ(株)を設立。



# 3. 活動を終えて（春季プログラム）

記憶に残ったのは、

みんながヘラヘラ笑いながら必死に写真を撮ったり、  
みんなと一緒に夜ふかししてチームワークをしたり、  
みんなの素晴らしい発表に感動した瞬間…

やはり自分は以前も、今も、これからも、  
日中交流が大好きです。

上智大学総合人間科学学部（復旦大学交換留学生）4年 黄麗賢



池松彩果

早稲田大学  
国際教養学部1年

たったの3日間でしたが想像を超える楽しさと学びでした。中国人学生とのアカデミックなトピックについての議論においては、価値観がぶつかり合う中で、お互いを受け入れ、協力していくことの大切さを改めて感じました。3日間を通して中国人、日本人学生ととても仲良くなったこともとても嬉しかったです！今後もこの友情を大切にしていくと同時に、お互いを高めあえるような関係でありたいと思います。最後に、国と国をつなぐのは、やはり人と人のつながりだと私は信じています。



尹子瀟

早稲田大学  
政治経済学部1年

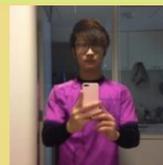
思ったよりずっと楽しい三日間でした。みんなすごく優しいばかりで、大変お世話になりました。短い三日間でですけど、資料を読んでまとめるとか、みんなとディスカッションをして、出した成果を発表するとかのことで、自分はずいぶん成長したと思います。また、違う見解を持っている人とのディスカッションで、いろいろな問題を違う角度から見ることができました。日本に来てまだ一年間経っていないですから、これからまだ勉強しなければならないことがたくさんあります。リードアジアで学んだことをこれからの勉強にも、就職にも活かしたいと思います。



佐藤翔太

神奈川大学  
外国語学部1年

最初のディスカッション前に配られたハンドアウトが、わかりやすくかつ詳しく理解できるものでした。この資料を見たときから、実行委員会のプログラム準備にかけた労力と熱意が汲み取れました。スルメの販売計画、中国での高齢者対策等のディスカッションでは、将来貿易をしたいと考えている自分にとって大変有意義なものでした。多くの知識が得られ、また自分が他の参加者と比べ足りない部分がありました。また、それぞれの分野で活躍する多彩なバックグラウンドを持つ方と友人になれる場は少なく、参加して良かったです。



张衍博

東京海洋大学  
食品生産科学科2年

リードアジアに参加させて頂いてとてもよかったですと思いました。本当に内容の濃い三日間でした。たくさん優秀な日中学生と出会って、一緒に課題の解決を挑戦しました。グループディスカッションの時はまさに議論が白熱していました。最後に、皆の協力で素敵な発表が出来ました。このプログラムを通じて、私は日本人に対する認識をより一層深めた。また、自分自身の欠点も気づかせて頂き、反省の機会を与えてくれた。皆さん、ありがとうございました!!!



中村優美

横浜国立大学  
経済学部1年

皆参加理由は違えども、向かっている方向は一緒だと思います。今後の日中関係は私たちににかかっていると言っても過言ではありません。自分たちで現状を変えていくためには文化交流は必要不可欠です。文化を知ることによって、お互いの壁が薄くなり、より良い友好関係を保てます。今回の活動は微力でしかありませんが、こうやって少しずつ多くの学生たちに想いが伝わればきっと中国に対する印象が変わってくると思います。今回は幅広く活躍している人たちと出会う事ができ、普段の大学生活では味わえない刺激マックスな三日間を送ることができ、日中友好関係を促進したい日本人の人と中国人の方々とお会いすることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。



王宇飞

白鴉大学  
経営学部3年

今私は大学生の三年生ですが、今までの大学生活を送りながら、日々大学の刺激感が足りなくなってきたと思いました。このイベントに参加して、日本人の素晴らしい学生たちと出会えることができ、またこれからこのようなイベントがありましたら自分の友人を誘って参加させていただきます、よろしく願い致します！



### 成田陽一

一橋大学  
商学部1年

このプログラムで得た最も大きかったことは、グローバル人材について考える場を頂いたということです。プログラム参加前は、ある問題について議論するとき、母国の問題は母国の人間が一番理解していると考えていました。しかし、留学生は、日本の問題について、日本人には考えつかないような独自の視点で問題を考えていました。共に議論をしていくうちに、客観的に他の国のことを考えられる存在こそがグローバル人材であると気づきました。普段別々の環境で活躍している人たちと過ごした3日間は私にとって大きな財産となりました。



### 温益申

学習院大学  
経済学部3年

正直去年よりもかなり高いし、リードアジアに参加するため志望度高い企業の特別セミナーにいけなくなってしまうので、最初に行くか行かないかで非常に悩んでいたのですが、参加して本当に良かったと思います。良い友達ができ、グループディスカッションを通じて就活のリハーサルにもなったし、何より日中間にお互いに仲良くなりたいたいという人が沢山いてあっという間に充実した3日間を過ごしました。自分自身の不足を再認識することができて、本当に参加して良かったです。スタッフのみなさん本当に3日間お疲れ様でした。今度リードアジアのプログラムもぜひとも誘ってください。



### 原優花

一橋大学  
社会学部1年

私自身中国との繋がりがほぼ無い状態での参加だったため不安ではありましたが、日中関係を一から勉強するという意味でもこのプログラムはとても勉強になりました。企業訪問ではリアルタイムで行われている事業を知ることができる上に、グループディスカッションで互いの価値観を超えて意見交換をすることができました。参加者の皆さんもフレンドリーで、勉強、友達作り両方の意味で活用できると思います。少しでも興味のある方は参加してみることを心からおすすめします。



### 黄麗賢

上智大学  
総合人間科学学部4年

最後に全員ともきちんと話すことができず、ととても残念ですが、リードアジアに参加して本当に良かったと思いました。この三日間を振り返ると、毎日毎日ディスカッションばかりのイメージで、大変そうに見えますが、楽しさと充実している気持ちがあまにも大きく、大変なことは全く記憶に残っていません。記憶に残ったのは、みんながへらへら笑いながら必死に写真を撮ったり、みんなと一緒に夜ふかしてチームワークをしたり、みんなの素晴らしい発表に感動した瞬間…やはり自分は以前も、今も、これからも、日中交流が大好きです。三日間の絆を一生続けたいと思います。今回の経験は自分の就活に大変有意義な経験になれると思います。本当にありがとうございました。



### 梅井茉実香

慶應義塾大学  
法学部3年

初対面の中国人学生と寝食を共にして、時には議論をぶつけ合い、難しい空気になることもありながらも、それ以外のときはたわいもない話をして楽しく過ごした3日間は、とても充実したものでした。国籍の違い、考え方の違い、生まれ育った背景の違い、年齢の違いなど様々な違いの中から共通点を見つけたときは自然と笑顔になりました。素敵な時間をありがとうございました。



### 劉明磊

早稲田大学  
基幹理工学研究科  
修士1年

参加させていただいて本当に良かったと思います。たくさん友達を作って、グループディスカッション、企業訪問、市役所見学など様々なことを体験しました。中でも一番印象が残ったことは企業訪問です。DNPは紙の印刷だけではなく、幅広く業務を展開しています。時代の変化に対応できる企業は生き延びるということを実感しました。また、高齢化社会について、日本人と議論する時、中国人は、政府に頼むという視点を持っている人が多いですが、日本人は政府は個人の生活に参入するのはあまり好きじゃないという意見を持っている人が多い、それは本当に知りませんでした。今回のイベントを通じて、本当に勉強になりました。



### 韓天一

慶應義塾大学  
文学部3年

最初にみんなはお互いに知らなかったけど、アイスブレイク活動によって、参加者たちを仲良くすることができたのは、本当にすごいと思います。スタッフ全員も明るい方々で、交流しやすいと思います。今回の経験を大切にしたいと思っています。



### 豊崎万里子

創価大学  
経営学部1年

リードアジアプログラムでの経験は参加前に私が想像していた以上の経験でした。日本人の学生と中国人の学生と切磋琢磨しながら過ごした3日間。どの日もとても濃い1日でした。真剣に社会問題について語り合ったり、お互いの学生生活について語り合ったり、企業訪問で共に企業についての勉強をしたりなど全てが自身への刺激となりました。一番の思い出は、参加メンバーとの友情を築くことができたこと。中では今でもプライベートで会っているメンバーもいます。私の学生生活においてリードアジアプログラムは学生生活の誇りといっても過言ではない経験となりました。この経験を後輩に語り継いでいきたいと思っています。



### 張瀟

慶應義塾大学  
商学部3年

もっと一緒に切磋琢磨したい。2泊3日のプログラムを終えたときに素直にそう感じさせられるほど素晴らしいものでした。日本に留学する中国人として日中両国の学生が一同に集うプログラム、そんなものにずっと参加してみたいという思いから今回応募しました。ESや面接と選考を進めより一層参加したい思いが増しました。無事合格しプログラム当時最初のオリエンテーションで既に仲良く話ができるような雰囲気が醸し出されたときからもう参加して良かったという思いが脳裏に浮かんだ。企業訪問やディスカッション等の充実したプログラムを経て一生切磋琢磨できる仲間をこの2泊3日で作ることができました。夏はもちろん、今度は運営側としても参加してみたいと思いました。



### 岡部帆乃香

津田塾大学  
学芸学部3年

全体のプログラムを通じて、端的でも中国の文化や社会を学ぶことが出来たと勉強になりました。中国でも内陸と海沿いで文化の違いがあったり、全国統一の介護保険の制度がないなど、新しい発見もたくさんありました。「中国人」と言われる人は13億人もいるんだから、きっとまだそのごく一部しか知らないんだなとも思います。企業の訪問先でのグループワークにおいては、国が違えどお互い協力してひとつの作業にあたる、というような力もついたと思います。欲を言えば、政治についてももう少し深く話してみたいかったです。それでも、私はこのプログラムに参加することができて、本当に満足しています。



### 喬毅

横浜国立大学  
環境情報学府修士2年

大学まるまる4年間は、ほとんど日本にいる中国人また他大学の人たちと触れ合う機会が無かったことで、ドキドキワクワクしてこのプログラムに参加しました。最初はいろいろと不安や緊張もあったが、ふりかえれば本当に想像以上の経験を得られました。たくさんの仲間たちにめぐまれた上、新たな価値観や考え方を身に付け、就活に必要なグループディスカッション力も鍛えることができました。後輩たちに胸をはってすすめられるプログラムだと思っています。



### 竹中しおみ

関西外国語大学  
国際言語学部3年

今回リードアジアに参加して得た一番のものは、日本人中国人の育ってきた環境や価値観が異なるメンバーで何か一つのことを創造していくことがとても楽しかったという経験です。今まで日関係など、どちらかという対立しがちな中ででのディスカッション経験はありましたが、今回のように共通のゴールを設定しそれに向かって時には衝突し時には協力しあうこと自体が初めてでした。またグループワークを通じて日中間における共通の社会問題に触れることができたのも新鮮でした。新しい人脈も広がり、とてもよい3日間でした。



### 波多葵

東京農業大学  
応用生物科学部2年

3日間という短い時間とは思えないほど、濃い日々でした。中国からの留学生、日本の様々な大学の学生とディスカッションしたり、プレゼンをしたりして、2つの国で意見が異なる場所、難しいところもありましたが、それを理解しようとする過程もまたおもしろかったです。また、留学生からの生の声を聞き、中国という国は一つにまとめて言うことはできないし、まだまだ学んでいきたいとも思いました。企業訪問や行政訪問もでき、多角的な視野が得られた3日間でした。ありがとうございました。



### 宋雨墨

大阪大学  
法学部3年

僅かな時間内に、こんなに完成度の高い活動を主催するなんて、本当に素晴らしいです！企業訪問もいろんな情報を収集できたし、グループ討論で様々な面白い意見と出会って、他人の話術を勉強し、素晴らしい友達もできました。最終発表で短時間内団体作業やリサーチの面でいろいろ苦労して、チャレンジしたことが、自分にとってすごく大きな成長でした。そして、最初からのアイスブレイクと自己紹介など凄く楽しく、興味深いゲームによって、参加者の人々とすぐ親しくなれたのも本当にすごかったと思いました。主催側の工夫を深く感じましたよ。本当にありがとう！リードアジアを是非大学の友達や後輩に紹介したいと思っています。



### 渡會昂佑

東洋大学  
経営学部3年

リードアジアは交流の次のフェーズ、なにか1つの目標に向けて、異国の人と共に達成を目指すというまだ今の日本にはなかなかないプログラムでした！大事だとは分かっていたが、やはり頭で考えているように上手はいかず、今回その実践を通して難しさをとても理解することができました。一方で多くの可能性も感じました。ただ、あくまでも人と人の関係に違いはないので、きちんとお互いを理解しようと努めること、そしてお互いに加担の意識を持つことが大切であると再度理解させられました。そういう意味では僕は他の参加者から多くの助けを頂いたと感じております。



### 朴玉娜

中央大学  
国文学研究科研究生

最初は参加する前にちょっと不安でしたが、スタッフ皆んな優しいし、参加した皆様も活発的な性格だったので、すぐ親しくなりました。こんな優秀な人達と一緒に三日間のディスカッションとか交流を通して、自分の不足点も気付いて、これからはもっと頑張りたいと思います。日本に来て初めて日本企業訪問できて、色々なこと勉強になりまして、有意義なプログラムだと思います。



### 遠山晴香

津田塾大学  
学芸学部3年

とても充実した三日間でした。今回得た友人はこれからもずっと付き合っていきたいような、素敵な人ばかりでした。プログラムを通して常に一緒に考え、行動できたのは本当に貴重な経験でした。また、企業へ足を運び生きた企業活動を目の当たりにできたこと、学んだことを組み合わせアウトプットすること、どれも満足度の高いプログラムだったと思います。参加して良かったです、ありがとうございました。



### 3. 活動を終えて（夏季プログラム）

いままでにあった偏見を、  
なくなったと言えるほどに変えることができましたし、  
一人の人間として、接することができたと感じました。

月並みではありますが、  
このように素直に思っております。

山口大学経済学部 3年 横山 将大



池田 颯

明治大学  
政治経済学部1年

今まで中国のイメージは決してよくなかったけれど、そのイメージが180度変わる経験になりました。企業訪問や文化交流を通じて”本当の”中国人を知ることができました。最終プレゼンでは、夜中まで議論して、ほとんど寝ずにまた議論して、中国人と日本人を意識せずにたくさんお互いの意見を話し合せて「チームがひとつになれたこと」が何よりも一番の思い出です！  
これからは、日中友好を考えるために中国のことはもちろん日本のことももっと学んでいきたいです。  
最高の8泊9日でした！！



李雅琴

一橋大学  
法学部学部1年

とても素敵なプログラムでした。この九日間個性豊かな仲間たちと出会えた事は一生の宝物になるでしょう。一緒に企業訪問に行き、一緒にディスカッションを行い、日本の企業について色々勉強しました。また、日々の合宿生活を通して、とても高濃度の接触ができて、急速に仲を深めて行けました。後半の文化交流のスケジュールは前半の企業訪問で深まった仲でわいわいと存分に楽しむことができました。日中の学生がこの場の集まりそして関わりを持つ事は素晴らしい事だと私は思っています。これからは仲間たちと再会できることを楽しみにしています。



神内優大

国際基督教大学  
教養学部1年

企業訪問を切り口とした日中交流はということで、8泊9日で得たものは多く、時間の経過がとて早く感じられるほど充実していました。特に会長様がお見えになった中小企業やゼンショーホールディングス様は熱意を感じたと同時に企業理念や事業の本気度に感銘を受けました。数年後の就職活動ではそういう点も見たいなと思いました。文化交流関連のイベントで特に印象深いのは歴史授業でした。実際に顔を見て戦争の話をするのはなかなか勇気がいることですのでとてもいい機会でした。あと初めて花火をみた中国人学生の反応が素晴らしく、日本の文化に誇りをもつことができました。



劉静潔

大連交通大学  
外国語学院2年

短い時間ですが、とても充実していました。この中で、もちろん挫折もあって悔しくて泣いてしまったこともありますし、みんなとこうやって交流したり、笑ったりすることもありました。毎日成長していたと思います！  
それに企業訪問を通して、いい経験になりました。友達もいっぱい出来て嬉しいです。本当に忘れない夏でした。またいつか皆さんが集まる光景を想像したら泣きそうな気持ちです。ただこれを考えれば頑張れると思います！



中山李咲

アメリカ創価大学  
教養学部1年

思っていたより大変だったこともあったけれど、友達もできて、思っていたより自分にもできることに気付いて、心から参加してよかったなと思っています。今まで中日友好や企業も興味はあったけど自分で踏み出していませんでした。でも、今回のプログラムが私の将来と中国との向き合い方にとて大きな影響を与えていくと思います。国際交流基金さん、企業さん、実行委員さん、本当にありがとうございました。



任嘉雯

中国人民大学  
財政金融学院2年

今回のリードアジアのプログラムを通じて、私は本当に良い勉強になりました。始めは日本語を使うと緊張しやすいけど、プログラムの展開にしたがって、自信を持って日本語で参加者の皆さんと交流することもできるようになりました。そして、私は大学に入ってから、授業のストレスも多くて、自分も少し怠けたせいで、このような活動にあまり参加したことがありませんでした。本来私自身も日中交流についてのことに非常に興味を持っていますから、これからも中国で日中友好のために日中交流の活動をもっと参加してみたいと思います。それに、企業訪問のきっかけで、自分のこれからの就活や生活方向も深く考え、もっと自分の進路を決めることができました。最後に、日中両国の友達もたくさんできて、何より嬉しかったです。



鄒逸馨

浙江工商大学  
日本語学部2年

最初はリードアジアが日中交流活動だと思いましたが、実際に参加したら、この活動が会社訪問を中心としての中日大学生交流活動でした。今回のリードアジアを通して、学んだことは2つ。まず、一つめは日本の大学生と比べると中国の大学生の就職プランについての指導がまだまだ足りないと感じました。今回の懇親会のような活動が中国での普通の大学があんまりありません。つまり、中国大学生が社員との交流が少ない。次に2つめは日本の大手会社が中国の大手会社と全然違います。中国で東京三菱UFJ銀行のような大きな銀行が貸出金庫を大学生に参加させるとは多分不可能だと思いました。でも私たち訪問した会社がとても親切だし、社員さんも優しいし、素晴らしい経験を私たちに伝えましたし、ととても役に立ちました。



國重浩希

同志社大学  
グローバルコミュニケーション学部2年

このプログラムは今までで一番内容の濃い一週間になりました。朝早く、夜遅い、その繰り返し。そして、プレゼンを徹夜して完成させて発表。っていうとつものハードでした。でもその裏にはみんなと一つのものをつくりあげるといふ事は大変だったけどとても達成感のあることだった。たぶん、友達にもどうだった？って聞かれても一言じゃ言い表せない位色々な事がありすぎて興奮しちゃってます。本当にありがとうございました。



朱妍渝

重慶師範大学  
日本語学部2年

私は知らない人の前に発表するのにすごく恥ずかしがるタイプで最初は自信が全然なかったです。でも、参加者のみんなは優しくて実行委員の方々もいろいろ助けてくれて、自分もだんだん出しました。ありがとうございました！たくさんの日本人に出会ってよかったです。リードアジアのようなプログラムはやっぱり私のような日本語専門の学生にとつとてとても有意義だと思います。これからも友人にも後輩たちにもお勧めします！



佐藤翔太

神奈川大学  
外国語学2年

すき家の牛丼定食が美味しかったです。すき家のゼンショーの小川さんのお話が一番面白く、食べ物で世界平和に貢献しようとする自分の信念が更に強まり、かつ、そのようにして企業として成功を収めて今なお社会貢献の目標を達成しようとする企業が見学できたことがこのプログラム中最大の収穫でした。



王黎

慶應義塾大学  
文学部3年

本当に参加してよかったと思います。八泊九日間とても充実でした。企業訪問するとき、大変な時もありましたが、滅多に行けない企業の訪問ができてよかったです。最終発表の準備が一番印象に残っています。前日夜課題が発表されてから発表するまでわずか10何時間しかありませんでした。その為、グループ6人夜中3時まで話し合いました。その時全然疲れたと思わなくて、頑張ってるってこんな感じなんだと思いました。そして、一生友達でいて欲しい人がいて、本当に本当に嬉しいです。2011年10月日本に来てから一番楽しかった九日間です。ありがとうございました。



新里涼太

沖縄国際大学  
経済学部3年

このプログラムで、日に日に自分の無力さを痛感していくのと同時に中国の方の人間味に日に日に魅了された。とても悔しかったが、負けてられないと強く思い目標ができた。また世界中の方と交流していきたいと小さな目標が見つかった。



甘茜

中国伝媒大学  
外国語学部2年

リードアジアを通して、日系企業について、いろいろ勉強になりました。昔、日本企業を言ったら、資生堂やソニーあるいは三菱のような典型的な会社です。今、ゼンショーホールディングスみたいな会社を知っていて、ラヴォックスのような中小企業も知っているようになりました。

また、この一週間、一生忘れない友達もできて、最高の思い出を作りました。



ターン有加里  
ジェシカ

一橋大学  
商学部2年

リードアジアに応募したきっかけは、あまり知らない中国に触れる機会が欲しかったためです。このプログラムを通して、一週間も中国人学生と交流するなかで、普段の生活に関する身近な話から政治に関する真面目な話までたくさん話しました。たくさん話すほど、良い刺激を受け、中国への興味がわきました。このプログラムを契機にさらに中国への関心を深めたいと思います。



伍玥

山梨県立大学  
国際政策学部3年

最初ただの企業訪問だと思っていましたが、実際に参加したらそれ以外にも意味深いことがたくさんありました。ディスカッションの時1年生が司会をやりみんなの意見をまとめる姿を見て自分も頑張らなければいけないと思いました。そして、日本人学生が親切に本土学生や留学生に何かを説明している姿を見てとても感動しました。別れる日にみんなで泣き合い、心がこんなに結ばれていることに気づきました。このプログラムで企業の勉強以外にも触れる機会が多くなり、普段では絶対に話さないことを話し合うことによって、壁紙が知らぬうちに崩れてきたと思います。この企業訪問以外いろいろ考えさせるプログラムに参加して本当によかった心の中から思います。



### 中塚友梨

早稲田大学  
政治経済学部2年

1番にこんなに素晴らしいリードアジア2015に参加できたこと、計画から準備・実行まで想像できないほどの時間と労力をかけて頑張ってくれた実行委員を始め、国際交流基金や企業など支えてくれた全ての方々に感謝したいです。9日間中国人学生と触れ合うことで国民との交流はできましたが国についてはほとんど知らないの、もっと国民と交流して中国を感じていきたいです。今回の学びや経験を今後活かして、出会いを継続させていきたいです。ありがとうございました。



### 濮梅尼

中央大学  
商学部3年

最初の日から毎日充実して少し疲れましたが、心の中が幸せだと思いました。若者として時間を無駄になるのが最悪だと思って、リードアジアに参加したきっかけとしてこれからもこの9日間と同じように充実して過ごすべきだと考えました。参加してから一番悔しいことが自分もっと力に入ると思いました。毎日いろいろ反省できました。このことから自分が良く勉強しないといけない。このような優秀な皆さんと友達になるのが恥ずかしいと思いました。9日間から一番得られたことが友情だと思います。最後の打ち上げで皆さんが泣くなって、この間のいろいろが映画と同じ頭の中でいろいろな画面が現れました。リードアジアのようなプログラムが初めて参加して、一生も忘れません。皆さん最高です！



### 林浩太

京都大学  
経済学部2年

非常に濃密で楽しい9日間で、朝から晩まで頭と体を動かして、笑いの絶えない毎日だった。日本と中国の政治・経済・ビジネス・福祉・教育等について双方の様々な観点から学生が総合的に議論や意見交換できる場所はこの以外に無いと思う。政治面で難しい関係が続く中でネットには様々な情報が溢れ、中国のことを過度に一般化して知った気になったり、日本人の視点だけに凝り固まってしまうことも多い。そのようなある種の“怠惰”を打破し、日中関係ひいては日本のために中国を正しく多面的に理解をしなければならず、文字通り同じ寝食を共にして一緒に過ごしながら実際に中国人一人一人の考え方や物事の捉え方に触れる機会は必要不可欠だ。それこそがリードアジアの醍醐味だと思う。



### 黄揚

中山大學  
日本語学部3年

今回のプログラムに参加できて、国際交流基金と実行委員達に心から感謝しております。一週間で大変短いですが、日本人と友達になり、日本生活を体験し、嬉しくて楽しんでいました。このいい思い出を一生忘れません。実際に、一週間の中に、困ったことがありました。最初は自分の日本語に自信がなかったし、どういう風に日本人と交流するかも分からなかったし、日本人との交流が少なかつたと思います。でも、実行委員の先輩からの意見があった、“言語はただ道具であり、交流が目的である。だから、できるだけ日本語を話しましょう、間違いがあっても自分の損ではありません。”僕は納得して、このあと積極的に日本人の学生と交流して、いろいろ勉強になりました。ですから、実行委員達と日本人の学生さんに本当にありがとうございました。



### 横山将大

山口大学  
経済学部3年

私は今回の事業から、いろいろな方との交流から、様々な“知る”を経験することができました。事業の意味・人間関係・会社訪問を通じた社会理解・日中交流などなど。しかし良いことだけではなく、自分の役割がわからなかった時や、周りの人への配慮が足りなかったと思う後悔と反省もありました。今後については一人の人間として接することができた仲間との絆を、これからも続くような関係にしていきたいと思います。周りの方々へ、今回の研修成果を伝えるとともに、自他ともに成長をすることができる環境を、まずは小さなところから作って行きたいと思います。



### 張潔

重慶師範大学  
日本語学部3年

この夏、「リードアジア」プログラムに参加できて、本当によかったです。前は、日本人と交流したことがありましたが、今回のように、優秀な日本人学生と一緒に日本企業を訪問して、ビジネスの視点から、色々な意味のあるディスカッションをするのは初めてです。これを通して、普段の考えは足りないということにも気づきました。これからは、身の回りの事や国際的な事件などについて、資料を調べた上、自分なりの意見をまとめようと決めました。九日間の合宿で、日本人の皆さんと一緒に食べたり、おしゃべりしたりして、本当に楽しかったです。これから機会があれば、また日本に行って、自分の目で、日本をもっと知りたいと思います！最後に、スタッフの皆さん、本当にありがとうございました！



### 延墨玥

長安大学  
日本語学部3年

今回、リードアジアに参加できて、みんなと会えてよかったと思います。16日成田に到着する前にはずっと心配していましたが、迎えてくれたタナとユナをみると、何の心配も無くなってしまいました。企業訪問を通じて、日本の企業文化を体験して、日本企業の魅力もわかりました。グループでディスカッションする時、日本人の学生も職員方もやさしく説明してくれて、励ましてくれました。本当に感動しました。みんなのおかげで、本当に楽しかったです。今後も中国人へのイメージが変わるように頑張りたいです。日中友好に自分の力を入れたいです。最後は、いつもお世話になっていた実行委員たち、誠にありがとうございました。



### 松浦優希

創価大学  
経済学部2年

8泊9日ありがとうございました。初対面の日本人と中国人の学生と過ごしたリードアジアは、1週間と少しでしたが、まるで1ヶ月を共に過ごしたかの様に濃密な時間でした。プログラムをこなすなかで、仲間意識が生まれ、別れるときはとても寂しかったです。企業訪問では、興味のある介護福祉業界について知り、驚きと発見があり、有意義な時間を過ごすことができました。リードアジアは、応募当初には知り得なかった世界、価値観、考え方に触れる機会をくれました。参加することができて本当に幸せです。今回の出会いを生涯の繋がりにしていけるよう、これからも努力していきます。



### 王傑

浙江工商大学  
日本語学部3年

宋の陸游は「冬夜読書示子聿」に書物から得たことが、結局浅薄であり、大切なのは実践だということを書いています。まさにその通りです。日本企業や中日交流などについての本や新聞などでいくらでも読めます。しかし、日本の企業を訪問せず、実際にイベントに参加しないと理解できないと思えます。今回のリードアジアに参加させていただき、本や新聞だけではわからない日本経済や異文化交流をいっぱい学びました。その中に、日本企業の中国進出について特に興味を持ち、さらに調べたいと思うようになりました。リードアジアで学んだことを今後に生かしたいと思います。



### 相原真梨子

東京外国語大学  
国際社会学部4年

何よりも「自分」と向き合うことが出来た9日間でした。今までは失敗を怖れて無難な道ばかり選んできたけれど、本気かで向き合ってくれた日中参加者との交流や、企業訪問を通して、何事にも全力でぶつかっていくことや、その為に自分自身と向き合うことの大切さを学びました。プログラムが終わってからどう行動するかが大切だと思うので、今回のリードアジアでの経験そして感謝の気持ちを忘れずに、一生懸命頑張っていきたいです。



### 濮斌杰

中山大學  
日本語学部3年

今回の活動を通して、多くの企業を訪問し、企業文化理念の点で、本当に感心した。中小企業としても、大手企業としても、いずれも自分の企業理念を持っている。全部の企業は自分の力で自分そして皆のために、頑張っている。ただ利益の追求のことではない。そして、日本人との交流から、日本と日本国民についてのイメージが変わった。皆は親切で、思いやりを持っている。そして、平和を貴重にして、多くの問題について自分の意見を持って、感心した。この点から、中日交流の友好な未来を期待している。従来、民間交流は重要な役割を果たして、これからもリードアジアのような方式で中日の友好交流を促すことを心から期待している。



### 内海京子

東京農工大学  
工学部4年

偶然予定があいていたと言う理由で参加したこのプログラムでしたが、まさかここまで自分を成長させてくれるとは思っていませんでした。国による文化や習慣の違いは勿論ですが、ひとりひとりの性格や考え方の違いにも触れることができる時間で、自分にとってとても有意義な時間でした。それと同時に今まで以上に中国に対して興味を持ったので、このプログラムをきっかけに、日中だけでなくアジアを牽引していける人材になっていきたいと思いました。また、このプログラムに参加することで、中国に対する知識が十分ではない人も、私のように興味をもつ人が増えることを願っています。



### 飯島悠希

国際教養大学  
国際教養学部3年

私がこのプログラムに参加した理由の一つは、日中の異文化理解や関係改善のための有効な方法についてヒントを得たからからです。いつもこのようなイベントに参加しても結局そのプログラムが終われば関係が終わることも多く、あまり効果を感じませんでした。しかし、このプログラムでの最終発表を通して考えた結果、ビジネスという長期的な関係も一つの手段なのだとことを再認識しました。最初にスケジュールを見た時は企業訪問の多さ、交流時間の少なさに驚いたのですが、企業訪問の重要性に気づけました。これからもどのように中国と関わっていけるかを考えて、ここで得た気づきを活かしていきたいと思いました。



### 曲亜楠

黒龍江大学  
日本語学部3年

今回のリードアジアを通じてみんなと出会って本当にうれしいです。このリードアジアに参加して、日本人に対する印象がもっとよくなりました。参加する前に、とても緊張しました。でも、みんなはとてに優しく、明るいので、ほっとしました。以前はテレビだけ日本を見て、今回のプログラムを通じて、自分の目で日本を見ていました。日本は私の想像以上きれいです。日本人はとて真面目だと聞いていましたが、今回のプログラムを通じて、この身で感じ、非常に感動しました。大変勉強になりました。最高の思い出になりました。自分なりの日中交流を続けています。



### 村上心汰朗

慶應義塾大学  
経済学部3年

私自身、今回のプログラムに参加するのは初めてでしたが、1週間という期間を共に生活し、話し合う中で日本人・中国人という垣根を越えた交流ができたと感じています。お互いが持っている先入観やわだかまりをよく話し合うことで、良い意味での払拭ができたと感じました。また、私自身のことになりますが、この1週間を通じて多くのディスカッション・企業訪問を行い今後の人生を考える上で、とても貴重な経験になったと実感しています。ありがとうございました。



### 李晓宇

西南民族大学  
日本語学部3年

実は、私は日本に到着してからうまくいけるかどうかという気持を持って日本に着きました。しかし、初めて日本人のみんなと一緒にゲームをして、初めて日系企業に訪問して、初めてそんなに多い日本人と一緒に合宿して、初めて最終発表のために一生懸命考えて徹夜して楽しかったです。8泊9日間短かったんですが、貴重な記憶として一生忘れられません。リードアジアに参加できて良かったです。みんなと出会って良かったです。最終の飲み会で一緒にお酒を飲んだり、笑ったり抱き合ったりして良かったです。以上の体験をくれたのはリードアジアのみなさんです。リードアジア、ありがとうございました!!



### 川居和樹

早稲田大学  
商学部4年

最初にオリンピックセンターに集められた時は期待と不安が入り混じり、ドキドキでしたが、9日間の企業訪問、文化交流を通じてお互いの意見が衝突したり、自身とは考え方の違うことも多くありましたが、色んな視点から考え、お互いを受け入れ、尊重し合うことで最後はスタッフ、参加者関係なく涙ながらの別れをするくらい学生同士が仲良くなれました。これからも様々な機会があると思うので、お互い思いやりの気持ちを忘れず仲良くしていけたらと思います。



### 付陶然

西南民族大学  
日本語学部3年

短い9日間でしたが、想像以上にたくさんのお話を学ばせていただきました。いろんな日系企業を見学し、社員たちとコミュニケーションすることによって、視野も広がっていきました。また、このリードアジアに参加することで、中国人と日本人の優秀な学生たちと交流したり、仲良くすることによって、自分の不足点を反省し、もっともっと成長しなければならぬと思えます。素敵な夏の思い出をくれた参加者の皆さん、スタッフの皆さん、ありがとうございました。



何珍

青山学院大学  
国際系政治経済学  
修士1年

8泊9日は本当に長くないですが、ずっとみんなと一緒に交流したり、生活したりことを通して長い時間を過ごしたと感じました。充実感が溢れていて、最高の思い出になりました。どんどんみんなと仲良くなって、また会いたい気持ちが非常に強いです。実行委員の真面目な態度と心の優しさに感動しました。



熊野陽子

アメリカ創価大学  
教養学部4年

このプログラムを通じて自分の未熟さと他の参加者の素晴らしさを実感しました。他のメンバーがディスカッションに真剣に取り組んだり、皆に気を配ってプログラムをいものにしようとする姿を見て、本当に感動しました。感動する同時に、自分の未熟さを感じ、もどかしく思い、悩みました。ですが、せっかくこのプログラムに参加させていただく機会をいただいたので、吸収できることはなんでも吸収し、もっと努力して、次また別の機会にメンバーに会う時、自分が相手に何かを与えられるようになっていきたいと思いました。自分にとってとても意義深いプログラムでした、参加させていただき本当にありがとうございました！



李秀妍

早稲田大学  
社会科学部  
修士1年

このプログラムは私が参加したプログラムのなかで、一番最高のプログラムの同時に一番疲れたプログラムでした。疲れた分、自分の長所とか足りない部分をしっかりわかるようになりました。企業訪問を切り口としたこの日中交流はお互いの国を理解する良いきっかけだと思います。



佐藤守

早稲田大学  
文学部4年

インターンに関しては、日本企業に訪問し、中国に対してのビジネス戦略に関して重点的に話をうかがえた点は、将来中国に関わった仕事をしたい私としては、非常に有意義であった。日中交流という点に関しては、一週間弱という短い時間ではあったが、中国の学生と生活を共にし、改めて、彼らの文化、価値観に触れたことは、貴重な経験となった。今回のような、若い世代による日中交流は、今後の日中関係にも大いに影響してくると思うので、日中関係に興味を持ち始めた学生にはぜひともおススメしたいプログラムである。



孫莎莎

西南民族大学大学院  
芸術学院修士1年

このプログラムに参加できたことに感謝しています。リードアジアを通じて自分自身を大きく成長させることができました。企業訪問を始め、様々なコンテンツが予想以上に良かったため、これまでになかった体験をこのリードアジアで最高の仲間たちと経験することができました。今回のプログラムをきっかけに日中関係を真剣に考えるようになりました。今後、日本の文化や日本語の勉強をもっと勉強し、将来日中の掛け橋になってなんらかの形で日中友好に微力ながら貢献して参りたいと思います。リードアジアで出会った仲間、経験したことは全て私の財産であり、宝として大切にしていきたいと思えます。最後に、社会人の皆さん、実行委員会の皆さん、同期の仲間たちに9日間大変お世話になりました。皆さんのことを心から感謝しています。



渡部優美

埼玉県立大学  
保健医療福祉学部4年

光陰流水の如し。9日間を表すのにこれほど適した言葉は無い。中国本土各地の学生と毎日グループを組み、日常から企業訪問での議論まで多種多様なことを話し続けた。「理解を深めたい」「友人を作りたい」、このような想いで応募した私には、毎日が学びと楽しみ時間の連続だった。それでも時間ももっと欲しい、もう一人の私がいれば2倍話せるのにとすら思った。中国についてのみならず、企業訪問ではリードアジアでなければ得られなかった学びに溢れた。これらの学びは社員の方々からと中国の学生ならではの視点、様々な専門分野からの日本学生の意見により成り立っており、これこそリードアジアの醍醐味であると私は思う。もし興味を持つ方が目の前にいるなら、自信を持ってオススメする。



房宇

黒龍江大学大学院  
東語学院 修士2年

リードアジアに参加したおかげで、いろいろ勉強になっただけでなく、たくさんの友たちと素敵な思い出を作りました。とても感謝致しています。企業訪問の時のディスカッションが一番楽しかったです。メンバーと意見を交わし、問題解決方法を考えることによって、日本語会話力や質問対応能力が上がっただけではなくて、お互いの友情も深くなりました。今回日本に行ったのは初めてですが、みんな優しく扱ってくれて全然寂しい感じはしませんでした。9日間は短かったですけど、今まで一番素晴らしい経験になりました。本当にありがとうございます。



# 参加者募集・アンケート結果

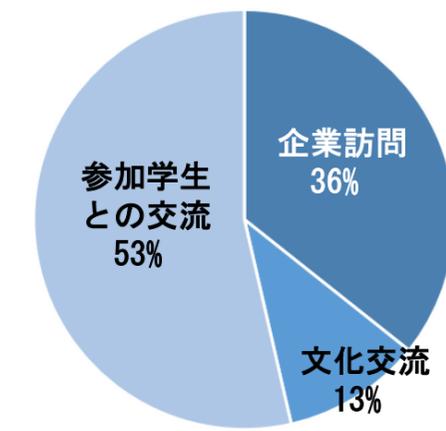
## 1. 応募倍率

春季プログラム：2.5倍（応募者数59名）  
夏季プログラム：7.4倍（応募者数250名）  
※夏季は公募枠34名で算出

## 2. 満足度（平均）

9.1 / 10点（全体）  
8.1 / 10点（企業訪問）

## 3. 参加前の期待



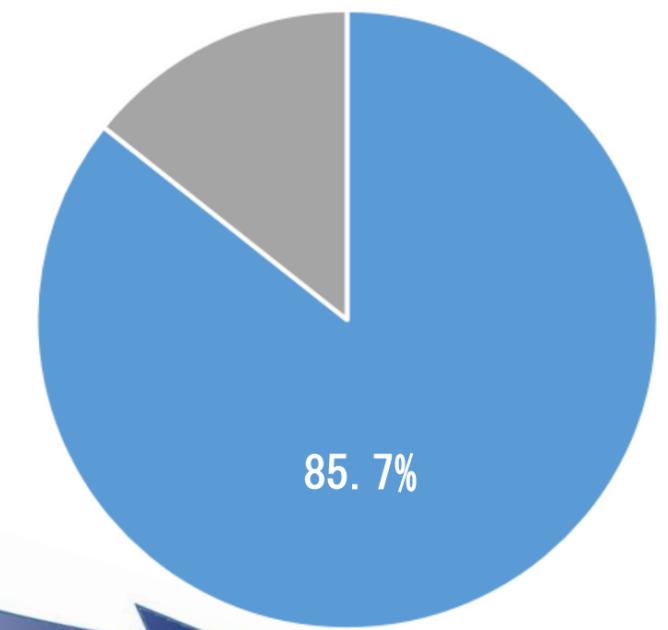
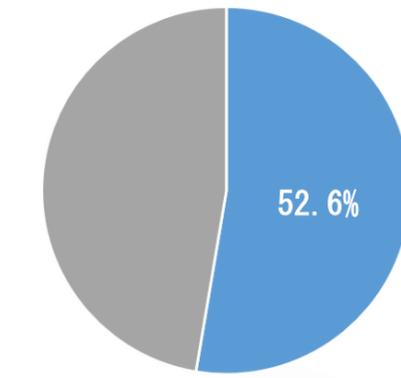
## 4. 参加を終えて

期待していたものが得られた } 93%  
期待していた以上のものが得られた }

### コメント抜粋

- ・好奇心が満足された。
- ・企業のことだけでなく同世代の中国人・日本人が何を考えているのかを知ることができて良かった。
- ・企業訪問ではHPからは分からないことを知ることができた。
- ・他人の話聞くことの大切さ、思いやりの精神を学んだ。
- ・想像の何倍も奥深いプログラムだった。
- ・交流を通して中国文化に触れることができ、興味が深まった。
- ・大事な友達ができた。
- ・頭が痛くなるくらい考え続けなければならなかった。

## 5. 相手国への好感度



参加前  
極めて高い・高い・やや高いと答える人が 33%増

参加後

## 4. 協力企業・団体・個人一覧

### 特別協力



今では、毎日あたりまえのように使っているペットボトルやICカード、電子書籍も、実はちょっと前までは思いもよらないものでした。今はまだ想像もつかないものでも、未来にとってはあたりまえ。大日本印刷(DNP)は、そんな未来のあたりまえを、その技術力を情報流通分野にも生かす「知とコミュニケーション」、農業や健康医療分野にも進出する「食とヘルスケア」、快適な住宅や移動空間のために様々な取り組みを行う「住まいとモビリティ」、環境負荷を減らす製品やサービスの開発を行う「環境とエネルギー」の4つの領域でつくっていきます。



世界には、すべての人が食べることができる十分な食料があるにもかかわらず、過剰な国と不足している国とのアンバランスに問題があると言われています。ゼンショーグループは、世界の食事情を変えることができるシステムと資本力を持った「フード業世界一」企業となり、世界から飢餓と貧困を撲滅することを目指します。



設立以来、当センターには海外でのビジネス経験や駐在経験があり、現地の政治・経済・文化・言語を深く理解する数多くのエキスパートが登録しています。こうした会員によって、途上国の国造りや日本への留学生への支援、中小企業の販路開拓、国際化や地方自治体の国際交流への支援、外国企業誘致への協力、大学での講座や小中高校生への国際理解のための授業実施、国際スポーツ大会でのボランティア活動など、様々な社会貢献活動を行っています。

### 訪問プログラムのご提供

#### 三菱商事株式会社

三菱商事は、「三網領」の理念の下、自らの持続的な成長はもとより、事業活動を通じて日本や世界の課題を解決し、グローバルな社会全体の持続的発展に貢献することを追求し続けています。

#### 株式会社三菱東京UFJ銀行

「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」を、「中長期的にめざす姿」として掲げております。いかなる時でも最も信頼される存在として、期待を超えるクオリティで応え続け、日本はもとよりアジア、そして世界に選ばれる存在となることをめざし、役職員一人ひとりがお客さまと真摯に向き合い、お客さまと社会を支える揺るぎない存在となるよう、前進してまいりたいと考えております。

#### 株式会社博報堂

『企業のベスト・マーケティング・パートナーとして、世界一級のマーケティングサービス企業集団を目指す。先進的かつ創造的な統合マーケティング・ソリューションの提供を通じて、新たな市場やムーブメントを創造し、社会／生活者に活力を与え続ける存在になる。』ことを基本戦略として掲げ、「生活者発想」をより高く磨き上げ、生活者、企業、そして社会に対する深い洞察力と理解力を持つパートナーとして、「生活者とともに未来をつくる会社」へと動き始めています。

#### 藤田観光株式会社

私たちは創業より、事業を通じ社会に貢献し続ける企業を目指してまいりました。これからも常にお客様のニーズを捉え、「いつも、ありがとうのいちばん近くに」いられるよう、日々愚直に挑戦し続けることが極めて重要だと考えております。2020年に予定されている東京オリンピック・パラリンピック、そして観光立国に向けた各政策を機会として、観光立国のリーディングカンパニーを目指して、チーム藤田丸となって新たなステージに向かって挑戦してまいります。

#### 株式会社ホトロン

ホトロングループは、「感謝、礼節、反省」を社訓に掲げ、「Speed & Strategy」を合言葉に健全な企業活動を通じて社会貢献することを経営理念とし、積極的な事業展開をしております。またエレクトロニクス技術を通して豊かでより安全な暮らしの実現をめざし、地球環境・世界及び地域社会との調和に配慮し、効率と安らぎを共創する企業として社会責任を果します。

#### 株式会社ラヴォックス

社員と共に愛されること、役に立つこと、必要とされることに真直ぐに向き合って四半世紀。私たちラヴォックスは「不良解析力」「半田技術力」「部品調達力」で国内唯一無二の実績を誇ります。今日この日を通過点とし、10年後、更には未来をはるかに見据え、今ある技術の先へこれからも挑み続けます。

#### 睦特殊金属工業株式会社

私たちは1963年以来、焼結部品を製造する専門メーカーとして電気・機械・自動車等の様々な分野においてギヤ、プーリー、軸受けをはじめとした様々な構造部品を供給して参りました。2004年には上海A株式市場へ外資系初となる上場を果たして拡大発展を続けております。私たちはこれまで蓄積したノウハウを駆使して、高品質な焼結部品を製造するだけでなく、お客様からの様々なニーズに応えてまいります。

#### 社会福祉法人新生寿会

私ども新生寿会は、1980年に岡山県で産声を上げて以来、介護福祉サービスの専門家集団として歩んできました。この間、「他の人がやらないこと」に挑戦するのを基本姿勢とし、精力的に介護福祉サービスの新しい可能性を掘り下げ続けてまいりました。

※その他、雪印メグミルク株式会社、柏地域医療連携センター、大日本印刷株式会社（特別協力）、株式会社ゼンショーホールディングス（特別協力）より、企業訪問プログラムへのご協力をいただきました。

### 告知協賛



### 個人協賛

眞鍋忠夫様 事前研修時のご講演

岡寄久実子様 日本銀行についてのご講義

※上記の方々以外にも多くの方のご協力を賜りました。

# 5. 主催団体紹介

## 日中学生交流連盟 (Japan China Student Frontier Group)

日中学生交流連盟 (JCSFG) は2012年10月に設立されました。2012年は日本と中国にとって国交正常化40周年という節目の年を迎えた一方、かつてないほど関係が悪化した年でもありました。現在加盟している団体の中には、準備していた活動の内容を変更せざるを得ない団体もありました。そんな中、日本と中国の学生のパイをより太いものにすべく、日中交流に携わる5つの団体がJCSFGを立ち上げました。

2015年8月現在、「OVAL」「京英会」「京論壇」「心连心OB・OG会」「日中学生会議」「日中学生交流団体 freebird」「日本青少年友の会」(50音順)の7団体が加盟しています。各団体の活動はディベートやホームステイ、語学交流やビジネスコンテストなど多岐にわたります(詳細は「加盟団体一覧」ページをご覧ください)。JCSFGは、こうした活動をより活性化させていくためのプラットフォームとしての機能を担っています。今後も加盟団体同士で知恵を出し合い、力を合わせ、日中の学生交流の活性化に取り組んでいきます。



### 顧問/アドバイザー

#### ◆顧問(敬称略)

谷口誠(元国連大使・桜美林大学北東アジア総合研究所特別顧問)  
川西重忠(桜美林大学教授・北東アジア総合研究所所長)  
楊光俊(桜美林大学孔子学院学院長)  
瀬口清之(キャノングローバル戦略研究所研究主幹)

#### ◆アドバイザー(敬称略)

丁寧(日中の未来を創る会協同代表)  
森谷幸平(株式会社WEIC取締役)  
福住俊男(グローバルマネジメント研究所代表取締役社長)

## 独立行政法人国際交流基金 日中交流センター (Japan Foundation-China Center)

独立行政法人国際交流基金は日本の国際文化交流事業を総合的に実施する専門機関です。1972年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003年10月に独立行政法人となりました。現在、本部と京都支部、2つの附属機関(日本語国際センター、関西国際センター)、及び海外21ヶ国に開設された22の海外拠点を中心に、外部と連携しつつ、文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流を3つの柱として活動しています。

日中交流センターは、日中間の青少年交流を促進するため、2006年4月に国際交流基金に設立されました。日本と中国の将来を担う若者たちが未来を共に創るため、改めてこの絆を大切に、さらに大きな橋をかけたい……この想いの下、主に3つの事業——次世代を担う中国の高校生を約1年間日本へ招へいする事業、日中の交流の担い手間のネットワークをつくり広げていく事業、中国の地方都市を中心に日本文化を伝えるとともに交流を行う「ふれあいの場」の設置・運営支援を行う事業——を推進しています。



OVAL (Our Vision for Asian Leadership) は、「東アジア初発のグローバルリーダーの輩出」をミッションに日中間の3か国、英語を用いた国際ビジネスコンテストを運営しています。3か国それぞれに支部を持ち、連携を取りながら毎年夏に開催されるコンテストの準備をしています。日本vs中国vs韓国という構図ではなく各国の学生が1人ずつ、3人1組となって計30チームでビジネスプランを競い合います。2015年夏には第13回を東京で開催しました。



現地語交流だからこそできる相互理解を目指し、毎年夏、日中30名の学生が東京・鯖江・北京で議論・街頭調査・ホームステイ・文化体験を実施しています。今年は「人間関係」をテーマとし、「恋愛」「学校」「家族」「企業」「日中関係」の5つの観点からお互いの国籍を超えた相互理解を目指し、日本語・中国語で議論を行いました。その他、定期的にディスカッションイベントを実施し、多くの日中大学生・院生・社会人の方々にお越しいただいています。



京論壇(きょうろんだん)は東京大学と北京大学による日中学生討論団体です。ディスカッション、及び社会発信を主な活動としています。ディスカッションは9月下旬から10月上旬にかけて100時間にも及び、日本の体制(本年度は階層社会、サステナビリティ、平和)について、選考を通過したメンバーが徹底的に議論します。社会発信については、ディスカッションの成果をまとめたプレゼンテーションやブックレットの配布、講演会の開催などを行っています。



未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現するため、日中両政府間の合意に基づく初めての長期招へい事業を2006年度より開始しました。招へい生たちは、9月初旬から翌年7月下旬まで、日本各地に分かれ、ホームステイ先や学生寮に滞在しながら、授業、部活、学校行事など現地の高校生たちと同様の生活を送ります。国際交流基金が主催するこの事業では「心と心をつなぐ」をモットーに、「心连心」というプログラム名称を用いています。



日本全国の学生と中国本土大学生による議論を中心とし8月2週間にわたり共同生活をする本会議が主な活動。開催地は日本と中国を隔年開催していて、戦後70年の第34回開催(2015年)は広島を初めて開催地とするなど今なお急成長中。加盟団体の中でも最も長い約30年の歴史を誇り、数多くのOBOGを輩出。OBOG会の結束力、専門家の支援や社会的発信力いずれも非常に高い。事前活動としてはスカイプによる勉強会、3度の合宿のほか企業・官公庁などへのフィールドワークや専門家を招く講演会等も充実する。両国を代表する学生主体の活動として主体的な活動が実現している。



「日中関係を改善するために、学生にできることは何だろう。」この思いを胸に2005年日中学生交流団体freebirdが結成されました。現在freebirdは日中両国(北京・上海・関東・関西)に4支部を持ち、「相互理解の場を創出する」ことを目的とし活動しています。活動は、JAPANTRIP・CHINATRIPという1週刊前後の交流合宿と、各支部ごとの交流型のイベントです。



日中青少年中国語友の会は、桜美林大学孔子学院の附属団体です。中国語を学ぶ青少年(15歳から35歳)が主体となり、桜美林大学孔子学院で開催されるイベントなどに協力しつつ、日中交流・日中友好に貢献しています。

# 6. 学生実行委員紹介

～十人十色～



実行委員長  
日高 真太朗  
慶應義塾大学  
理工学部4年

大学最後の一年間は卒業研究に一点集中するつもりでしたが、気が付けば仲間をかき集め、実行委員会を立ち上げていました。原動力となったのは本事業のコンセプトを守り、次代に残したいという一心でした。「ビジネス」という大多数の学生の興味対象と、それと対極にある「日中交流」を組み合わせることで中国に興味のない学生を獲得していくというコンセプトは、日中交流の裾野を広げるという意味において他にはない魅力、多くの時間・労力をかける価値があります。企画段階では辛いことも多々ありましたが、一生ものの仲間と共に、「やりきった」と言いきれるものができた私は幸せ者です。参加者の皆さんからの「ありがとう」の一言は心にしみ、忘れられないものになりました。



副実行委員長  
任 伝旭  
白鷗大学  
経営学部4年

今年は例年とは異なり、リードアジアを春季と夏季の二回にわたって開催し、二回とも盛大に開催することができました。それは実行委員や参加者同士の努力だけではなく、「国際交流基金」や「企業の方々」の援助があったからできたことだと思っています。私自身は昨年参加者でしたが、お世話になったこのプログラムに恩返ししたいという気持ちが強く、今年は実行委員として携わろうと考えました。私は常に学生の力が無限であると信じていて、日中友好の促進や豊かな社会作りには私たちにしかできないこともあると思っています。最後になりますが、このプログラムに関わった全ての方々にご挨拶申し上げます。引き続き、何卒よろしくお祈り申し上げます。



副実行委員長  
曾 毅春  
一橋大学  
商学部2年

今回は私が参加する第三回のリードアジアになります。去年は参加者でしたが、今年は実行委員という違う立場からリードアジアを体験することができて、本当に嬉しく思います。自ら新しい案を提案してイベントを企画するのももちろん、個性豊かな実行委員たちと共にグループワークするのが本当に面白かったです。企画から実行までいろいろ辛いこともありました。期間中にリードアジアを楽しんでいる参加者の姿をみるとリードアジアのやりがいを強く感じました。今回のリードアジアには不足部分もいろいろあったと思いますが、その経験をいかして次回はよりよいイベントを企画して行きたいと思っています。



夏季副実行委員長  
谷内 深雪  
テンブル大学  
国際ビジネス学科  
2年

去年参加者としてリードアジアに参加し素晴らしい体験をさせていただいたのがきっかけで、今年はぜひ実行委員がやりたいと思って日本に帰国した1月。それから早8ヶ月が経ち、リードアジア2015が幕を閉じました。参加者側からみた景色と運営側からの景色は違うものでしたが、わたしにとってリードアジアは将来を考える上で一つの重要な指標になりました。リードアジアを通して出会えた一生の友達や、チャンスに感謝しながら次のステージに向けてこれから頑張っていきたいと思っています。本当に協力していただいた企業の皆さん、半年間一緒にがんばってきたスタッフ、参加していただいた参加者のみなさんありがとうございました。



財務  
王 琳  
東京大学大学院  
修士2年

人は経験によって成長する者というならば、今年のリードアジアの8日間は私のかけがえのない経験となりました。スタッフとして関わって、「ビジネスを通じての日中交流」はどのような形なのか試行錯誤の日々は、決してプログラムが終わった後でも忘れたいことはありません。リードアジアは日々変化しているアジアの動態を読み取り、みずからの行動でそれぞれの領域でアジアをリードする人達が集まる「場」です。その場づくりに関わった全ての人に感謝いたします。ありがとうございました。



日本側参加者対応  
林 哲路  
国士舘大学  
経済学部4年

去年では味わえなかった辛さと達成感を今年は目一杯楽しんできました。二年目の運営だからそのギャップと自身の成長を体験できたんだろう。教え切れないほど真剣な議論、より良いプログラムを作り出すことへのこだわり…一番やりがいを感じたのは、4年生という時間と勝負する中での助け合いとそこで生まれた友情、得た仲間。運営スタートからの半年間と本番で春季&夏季参加者と一緒に過ごした時間、この全てが走馬灯のように頭を駆け巡っている。もし学生時代を物探し旅に例えるなら、リードアジアを経験したことは、間違えなく見つけた大きな宝物だ。私はこの宝物を大事にして今後の人生旅を楽しんでいきます。



渉外  
東 忻海  
中央大学  
商学部4年

今年のリードアジア夏季プログラムもやっと幕を閉じました。このようなビジネスを切り口とした日中交流プログラムが、関わってくれた皆様に良いキッカケ、気づきを与えられているのではないかと思います。まだ三年目のプログラムですが、ぜひこれからもみんなで力を合わせて、続けていきたいです。二年間も楽しませていただき、本当にありがとうございました。お陰様で、良い刺激だけでしたし、ずっと大切にしていきたい絆もできました。微力ながら、これからも何らかの形で関わって行きたいです。



中国側参加者対応  
金丹  
東京外国語大学  
言語文化学部3年

今回はリードアジア2015の実行委員として、みんなとの何ヶ月間一緒に頑張ってきました。今年は春と夏の二つに分けてプログラムを二回も実施しました。委員長を始め、スタッフのみんなは責任感が強く、すごく頼りになりました。準備段階から、私はみんなに励んでもらったりして、最後まで一緒に無時に終わらせることができました。スタッフのみんなには大変ありがたいです。今回のスタッフとしての経験は、いい思い出になりました。みんなお疲れ様です。



渉外  
張 瀟  
慶應義塾大学  
商学部4年

もう二度と実行委員をやりたくない。プログラム中にそう思っていた自分をぶん殴ってやりたいくらい今はできることならもう一度実行委員をやりたいと思っています。最後の日の打ち上げで参加者からの温かい言葉は本当に嬉しかった。実行委員長からのサプライズも本当に嬉しかった。反省を書いてみて改めて見えた未熟な部分。今ではもう一度実行委員をやって完璧なプログラムを作り上げたいという気持ちでいっぱい。参加者が見せてくれた笑顔や真剣な顔、そして彼らが流した涙が私には嬉しくて仕方なかった。もう自分ができないことを次世代の実行委員たちに伝え、私たちの思いと一緒により良いものを作り上げて欲しい。



中国側参加者対応  
朴 玉娜  
中央大学  
国文学研究科  
研究生

企業訪問だけでなく色々なことを考えているイベントだから、参加した皆にすごくいい思い出として残したいと思います。勉強できることもあれば、楽に遊べることもいいポイントだと思います。最初知らない人と一週間で仲良くなり、最後に解散する前には別れたくない気持ちでいっぱい。この活動を通して日中大学生たちはお互いに理解しようとしているし、日中友好のためにも役に立てると思います。でも活動が終わった時点から皆のつながりが薄くなってしまっているので、後の努力も重要だと思います。私は参加者の時はイベント自体を楽しめましたが、スタッフとして参加した時は運営しているスタッフたちの責任感や大変さも体験できました。本当に素晴らしいイベントだと思います。これからもずっと何年も何十年も長く続けて欲しいです。

## 『リードアジア2016』へのご協力のお願い

### 協力形態

- ①学生の受け入れ
- ②協賛金・物品の提供
- ③学生を募集する際の広報



日中学生交流連盟では、第四回『リードアジア』プログラム（2016年実施予定）にご協力いただける企業様を募集しております。1dayは随時募集、合宿型プログラムは春季（3月に開催予定）・夏季（8月に開催予定）を実施予定です。ご検討いただける企業様は下記連絡先までご連絡ください。ご説明にお伺いさせていただきます。協賛特典は下記協賛特典に準じます。メール：jcsfg.frontier@gmail.com

## ご協賛のお願い

日中学生交流連盟及び、連盟加盟団体では協賛金をお受けしております。

### 協賛形態

- ①日中学生交流連盟に協力する。  
→日中学生交流連盟と各団体で使わせていただきます。
- ②加盟団体に協力する。  
→いただいた協賛金はご指定の加盟団体で使わせていただきます。

連盟でお受けした協賛金は、上記いずれの場合にも連盟が責任を持って管理し、用途をご報告させていただきます。日中学生交流連盟加盟団体一同、日中関係の発展のために励んでまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 協賛特典

1. 年次報告書の送付
2. 連盟、及び該当する加盟団体の各媒体にて協力形態を明記いたします。
3. 連盟、及び該当する加盟団体の各媒体にて広告を掲載いただけます。

※上記の特典は協賛金が50000円以上の場合に限ります。  
※詳しくは日中学生交流連盟までお問い合わせください。



日中学生交流連盟-Japan China Student Frontier Group  
E-mail : jcsf.frontier@gmail.com  
HP : http://jcsffrontier.wix.com/jcsfg  
Facebook : https://www.facebook.com/jcsf.frontier  
人人網 : http://page.renren.com/601626418

国際交流基金 日中交流センター Japan Foundation China Center  
Tel : 03-5369-6074  
HP : http://www.chinacenter.jp/